

教育大綱改定に係る要素やこれまでの取組など

教育大綱を改定しようとする背景

- 教育振興基本計画の策定
 - ・H30.6月に新たな参酌すべき基本方針が示された。
- 新学習指導要領の全面实施
 - ・社会に開かれた教育課程
 - ・主体的・対話的で深い学び 等
- シチズンシップの醸成
 - ・前向きに地域を良くしていく社会の一員として役割を果たそうとする意識の醸成
 - ・コミュニティ・スクールの設置による実践
- 新しい時代への対応
 - ・子供たちが担う新しい時代で求められる資質・能力などへの対応

改定に向けた取組

- 総合教育会議での協議 (R1.10.17、R1.11.27)
- 西宮市子ども・子育て会議の場での意見聴取 (R2.1.30)
- 教育関係者へのヒアリング (R2.1月～2月)
 - 公私立学校の教員を対象に現大綱の評価や改定後に反映すべきと思うことや子供の育ち等をヒアリング
- 子ども未来カフェ
 - 「西宮の子供たちにどのように育ててほしいか」「そのため私たちが今できること」を共有するため、子育て世代を中心とした市民会議を開催。公募等で集まった市民56名が参加。また、これに先立ち、市民3千人を対象に教育大綱に関するアンケートを実施

総合教育会議・ヒアリングご意見のまとめ

- 子供が育つ「西宮という環境」(自然・文化・伝統)
- 教育で子供たちが身に付けていく「生きる力(知・徳・体)」
- 「学校」「家庭」「地域社会」は西宮の教育の当事者
- 世界は今、そしてこれからどのように変わりゆくか
- がまん強く、ものごとに取り組んでいくこと
- 「多様な協働」「感性・創造性」を通じて新しい価値を生み出す
- 西宮市も「夢はぐくむ教育のまち」を目指す当事者の一員
- 自尊感情、自己肯定感を身に付けることのできる環境
- 幅広い他者とのコミュニケーションの力を育てられる環境
- 子供が地域の一員として暮らし、育つことができる環境
- 教育の機会が保障され、多様なニーズにも対応できる環境
- 乳幼児から大人に至るまで教育が続けられる環境
- 生活や遊びの中で体験することができる環境
- 子供だけでなく大人も、生涯学び続けていくことが大切

子ども未来カフェ

- 〔西宮の子ども像として大切にしたい〕
キーワード
- 自己肯定・自尊心 (24/88件)
 - ・子供が自分を大切にする
 - ・ありのままがいいよ 等
- 意思決定・判断力 (11/88件)
 - ・自立と主体性を大切に
 - ・自分で考える力 等
- 〔西宮の子ども像に近づくため、私たちにできること〕
- つながる (15/84件)
 - ・学校・地域に対して関心を持つ
 - ・子供を取り巻く大人同士のコミュニケーションをしっかりとる
- 地域で育てる (13/84件)
 - ・明るい挨拶
 - ・声掛け
 - ・少しのお節介

シ
様
チ
々
ズ
な
ン
シ
主
ッ
体
プ
の
の
醸
成
参
画

新型コロナウイルス感染症による学校園等への影響

新型コロナウイルス感染症の拡大による突然の休業等により生じた環境の変化は、子供たちの学習面・生活面等に大きな影響を及ぼした。また、学校園の再開後も全ての子供に対する適切な支援・指導をそれぞれの環境や状況に配慮しながら実施していくことが求められている。

【取組など】

- R2.2.28文部科学省から小・中・高等学校等に対し、臨時休業の要請あり。本市では3/3から5/31まで休業。
- 教育委員会では、在宅学習支援として学習支援コンテンツのポータルサイトを紹介するとともに、4/20に授業動画を配信する「まなみや」を開設。
- 学校再開後、学びの支援員を拡充配置
- 学校によっては、メール、電話、家庭訪問等で情報発信やコミュニケーションに努めた。

【課題】

- 休業中の対応が学校による差異が生じた。
- ICTの活用について、子供への使い方の指導、教員のスキル向上、通信環境の確保
- 学校再開後の消毒や清掃など教員の負担増
- 学校給食の提供

新型コロナウイルス感染症対策に伴う児童生徒の「学びの保障」総合対策パッケージ概要(文科省)

あらゆる手段で、子供たち誰一人取り残すことなく、最大限に学びを保障

- 感染症対策を徹底しながら、まずはしっかりと学校での学習を充実
- 最終学年は優先的な分散登校等も活用し、学習を取り戻す
- 他の学年は、2～3年間を見通した教育課程編成も検討し、着実に学習を保障
- ◆授業を協働学習など学校でしかできない学習活動に重点化し、限られた授業数の中で効果的に指導
- ◆最終学年以外については、指導事項の一部を次年度以降に移す特例的対応を可能に
- ◆教員加配、学習指導員当人的・物的体制の緊急整備
- ◆ICT活用によるオンライン学習の確立

西宮市教育大綱の改定について（草案）

2020.10.23

総合教育会議、子ども・子育て会議、有識者ヒアリングからの意見

赤文字部分は現行大綱から引き継いだ要素

子ども未来カフェで
いただいた意見

現行の教育大綱

子供たちは、**未来の主役¹**です。彼らは、現代の社会が実現できなかった夢をこれから実現し、**新しい価値を創造する存在²**として、**敬意と寛容³**をもって育まれるべきです。

大人は、子供に対して**深い愛情をもって⁴**接するべきです。但し、ただ弱い未完成な存在ととらえて、守り慈しむだけではいけません。子供の育ちへの大人の過干渉や過保護は、子供の**自立した人間性⁵**の育成を阻んでしまいます。大人がすべきことは、子供たちが、**たくましさ⁶**、**優しさ⁷**、**豊かな感性⁸**を身に付けることのできる環境を整えることです。

西宮市は、**子供に期待することと、その実現のために大人に期待することをここに示し、広く市民と共有するとともに、これを今後の子供を中心とした西宮市の教育・子供施策の礎とします⁹**。

◆教育大綱改定にあたっての基本的な考え方

現行大綱に「シチズンシップの醸成」「様々な主体の参画」を付加

◆「めざす教育」のために付け加えた考え方

子供が育つ「西宮という環境」（自然・文化・伝統）
教育で子供たちが身に付けていく「生きる力（知・徳・体）」

「学校」「家庭」「地域社会」は西宮の教育の当事者

世界は今、そしてこれから どのように変わりゆくかが
まん強く、ものごとに取り組んでいくこと
「多様な協働」「感性・創造性」を通じて新しい価値を生み出す

◆めざす「まちのすがた」のために付け加えた考え方

西宮市も「夢はぐくむ教育のまち」を目指す当事者の一員

自尊感情、自己肯定感を身に付けることのできる環境

幅広い他者とのコミュニケーションの力を育てられる環境
子供が地域の一員として暮らし、育つことのできる環境

教育の機会が保障され、多様なニーズにも対応できる環境

乳幼児から大人に至るまで教育が続けられる環境
生活や遊びの中で体験することができる環境

子供だけでなく大人も、生涯学び続けていける環境

教育大綱の改定草案

豊かな自然と伝統に恵まれた文教住宅都市・西宮では、「夢はぐくむ教育のまち」の理念の下、未来の主役である子供たちが、確かな学力、豊かな心、健康・体力という「生きる力」をはぐくみ、それぞれの夢の実現をめざしてきました。このような西宮の教育の大切な部分はこれからも変わることはありません。

また、わたしたちは、学校だけではなく、地域でのさまざまな体験を通して、見識を深め、主体的に多くの人と交流するなか、お互いを認め合い、育っていくことを忘れてはいけません。

わたしたちを取り巻く世界は、技術革新が進む一方で、社会・環境も大きく変化し、将来予測が困難な時代を迎えています。このような時代だからこそ、一人ひとりが**努力と知恵と判断とを積み重ね、さまざまな人たちと力をあわせ、人間ならではの感性や想像力を活かし、未来を創り出していく²**ことが求められています。

西宮市はこのような視点に立ち、一人ひとりを大切にしながら、**たくましさ⁶**としなやかさを持ち、**未来の西宮、未来の世界を生きる人間¹**を育てるまちをめざします。

第一に、市民一人ひとりが**個人として尊重³**され、乳幼児期から**家庭や地域の温かい見守りと信頼⁴**の中で、**思いやり⁷**と自分を大切にする気持ち、**自立心⁵**を育むまちであること。

第二に、市民一人ひとりが自分らしい形で社会の中で共に生き、コミュニケーションをとり、支え合いながら、それぞれの役割と居場所が見つけられるまちであること。

第三に、市民一人ひとりがおかれた環境や状況などに関わりなく、必要とする教育を受ける機会とそのために必要な支援を受けられるまちであること。

第四に、市民一人ひとりが乳幼児期から質の高い教育・保育を受け、その後の学校での各教科等の学習や、豊かな体験活動を通して、生きる力を培っていけるまちであること。

第五に、市民一人ひとりが生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学び続け、その成果を適切に生かすことを通じて、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるようなまちであること。

「夢はぐくむ教育のまち」をめざす西宮市は、**子供に期待することと、その実現のために大人に期待することをここに示し、広く市民と共有するとともに、これを今後の西宮市の教育・子供施策の礎とします⁹**。

地域コミュニティ
つながり・関わり
地域を愛する心
経験・学び
地域で育てる

教育の見直し
意思決定・判断力
コミュニケーション
他者を受け入れる

適応力

個を認める
大人の接し方
信じて見守る
思いやり
自己肯定・自尊心

思いやり
居場所
幸福感・満足感

子育て支援

現行

挑戦する勇氣

- 【子供】自分に自信を持ち、新しいことや自分の目標に挑戦する勇氣を持ちましょう。
- 【大人】子供の興味や意欲に気付き、それを深めたり挑戦したりすることを応援し、見守りましょう。

自分で考える力

- 【子供】ものごとを鵜呑みにせず、自分で判断し、自分の言葉で自分の考えを表現しましょう。
- 【大人】自分の期待や特定の考え方を押しつけず、子供の話にじっくり耳を傾けましょう。

立ち上がるたくましさ

- 【子供】失敗しても、落ち着いて、そこからどうすればいいか考えましょう。
- 【大人】挑戦による失敗を責めず、そこでなされる子供の判断を尊重し、共に考える姿勢を持ちましょう。

他への思いやり

- 【子供】自分とは違った価値観も尊重し、他に対して思いやりを持ちましょう。
- 【大人】子供が多くの人や体験と出会う機会をつくり、他の価値観も存在することを伝えましょう。

健康的な生活

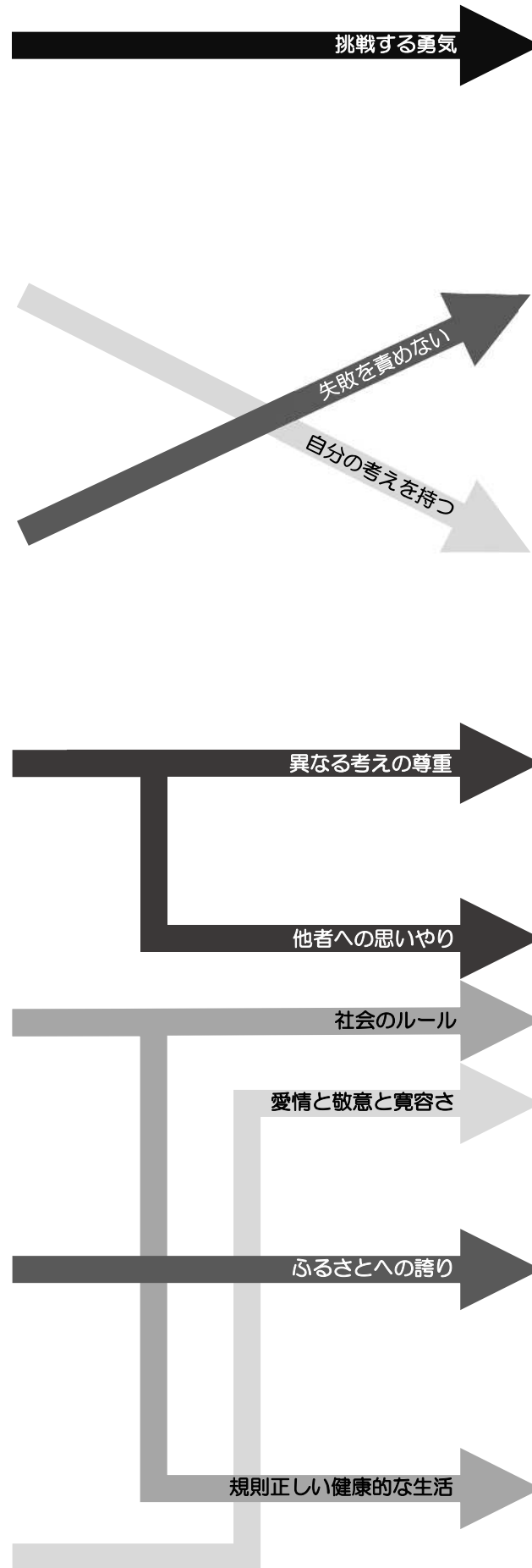
- 【子供】規則正しい健康的な生活を心がけ、社会のルールを守りましょう。
- 【大人】子供の健康的な成長に気を配った家庭環境をつくり、子供の模範となる態度を心がけましょう。

ふるさとへの誇り

- 【子供】西宮や日本の自然や伝統文化に親しみ、ふるさとへの誇りを持ちましょう。
- 【大人】地域や日本の四季や伝統文化を感じられる機会をつくりましょう。

愛情と敬意と寛容

- 【子供】—なし—
- 【大人】子供たちに対して、愛情と敬意と寛容さを持ちましょう。



改定草案

青文字部分は追加した要素

挑戦する勇氣

- 【子供】自分に自信を持ち、新しいことや自分の目標に挑戦する勇氣を持ちましょう。
- 【大人】子供の興味や意欲に気付き、それを深めたり挑戦したりすることを応援し、見守りましょう。

立ち上がるたくましさ

- 【子供】失敗しても、落ち着いて、そこからどうすればいいか考えましょう。
- 【大人】挑戦による失敗を責めず、そこでなされる子供の判断を尊重し、共に考える姿勢を持ちましょう。

自分で考える力

- 【子供】 **様々な情報に惑わされず、正しく判断したり、**自分の言葉で自分の考えを表現しましょう。
- 【大人】自分の期待や特定の考え方を押しつけず、子供の話にじっくり耳を傾けましょう。

多様な考え方・価値観の尊重

- 【子供】一人ひとりの異なる考え方や価値観を **認め合い、大切に**しましょう。
- 【大人】様々な文化や価値観を持つ人と出会う機会をつくり、**違いを認め合える社会づくりを進め**ましょう。

社会の一員としてのふるまい

- 【子供】 **わたしたちの**社会のルールを守るとともに、他に対して思いやりを持ちましょう。
- 【大人】 **社会の一員として**他者に愛情と敬意と寛容さを持ち、子供の模範となる態度を心がけましょう。

私たちのふるさと西宮

- 【子供】 **わたしたちが暮らす**西宮や日本の自然や伝統文化に親しみ、ふるさとへの誇りを持ちましょう。
- 【大人】 **子供が過ごし、育つ**地域や日本の四季や伝統文化を感じられる機会をつくりましょう。

心身の健康を保ち、さまざまな体験を

- 【子供】規則正しい健康的な生活を心がけ、**楽しく遊び、いろいろな体験を**してみましょう。
- 【大人】子供のころと身体の成長に気を配り、**さまざまな体験ができる機会をつくり、共に学び続け**ましょう。

失敗を恐れず、挑戦することが大切

自分を大切にし、他者も大切に

ともに暮らす社会を大切に

遊びと体験は大切

自己肯定感や
自尊感情を育み
自立につなげる

共同体感覚や
仲間意識を育み
社会の一員としての
暮らしにつなげる

心身の健康を保つ
習慣を育み
遊びや体験を通した
学びにつなげる

教育大綱改正に關していただいた意見等の整理

教育大綱の改定については、これまで総合教育会議、子供・子育て会議、有識者からの意見の聞き取りを行ってきたが、その内容を整理し、以下のように分類した。

| 分類内容 |
|------------------------------------|
| [A] 現行大綱に「シチズンシップの醸成」「様々な主体の参画」を付加 |
| [B] 子供が育つ「西宮という環境」(自然・文化・伝統) |
| [C] 教育で子供たちが身に付けていく「生きる力(知・徳・体)」 |
| [D] 「学校」「家庭」「地域社会」は西宮の教育の当事者 |
| [E] 世界は今、そしてこれから どのように変わりゆくか |
| [F] がまん強く、ものごとに取り組んでいくこと |
| [G] 「多様な協働」「感性・創造性」を通じて新しい価値を生み出す |
| [H] 西宮市も「夢はぐくむ教育のまち」を目指す当事者の一員 |
| [I] 自尊感情、自己肯定感を身に付けることのできる環境 |
| [J] 幅広い他者とのコミュニケーションの力を育てられる環境 |
| [K] 子供が地域の一員として暮らし、育つことができる環境 |
| [L] 教育の機会が保障され、多様なニーズにも対応できる環境 |
| [M] 乳幼児から大人に至るまで教育が続けられる環境 |
| [N] 生活や遊びの中で体験することができる環境 |
| [O] 子供だけでなく大人も、生涯学び続けていける環境 |
| [P] <呼びかけ形式>について |
| [Q] その他 |

[A] 現行大綱に「シチズンシップの醸成」「様々な主体の参画」を付加

| 項番 | 内容 | 備考 |
|-----|--|-------|
| A-1 | ・現教育大綱も、出ている意見も、一人の個としての子供に対してのメッセージでしかなくて、例えば集団で生きていく部分やこれからの多様な社会の中でシチズンシップ、みんなでやっていくみたいな協働性の文章が一切ないような感じも、大きな問題ではないかと思う。「西宮市では一人一人が頑張って生きていけ」と言っているだけのメッセージにとらえられても不思議ではないと感じた。 | 子子会議 |
| A-2 | ・現在の大綱は、こんな子供に育てて欲しいという一点突破で書かれているが、そのためにはどのような大人の姿やまちのあり方というようにところに論が進めば、総合計画とのつながりがより見えるのではないか。 | 総教会議 |
| A-3 | ・ここに描かれている大人は、子どもに対峙した一人の大人の資質的部分を述べている。それらの子どもと大人が、西宮のまちの中でゆたかな生活を実現していくためには、西宮のまちという教育環境をどうしていくべきか。そこに市民が参画して、このようなまちづくりをしていきたいと思いますというように加え方ができれば、構造的に整っていくのではないかと思う。 | 総教会議 |
| A-4 | ・改定にあたり、シチズンシップ、リカレントのような、幼児から社会人ところぐらいまでが対象ということをも明記していただきたい。そのために、西宮ではこういう子どもを育てますということと言えることができれば、中のことについては、不足の部分を補うだけで構わないと思う。ただし、先ほどもあったように、大人の部分はかなり付け加える必要があると思う。 | 総教会議 |
| A-5 | ・普段から漠然と思っていた多様性の課題、子供にとっていい社会が大人にとっても良い社会ができるなどを現在の大綱の形に落とし込んでいけば良いのかなと思う。 | 総教会議 |
| A-6 | ・シチズンシップももった子どもたちを育てることによって、大人になったときに地域を支えることになる。それには今は、地域と家庭をいかに支えるかが大きな課題。教育の始まりは家庭から始まると言われているので、その家庭をどう支えるのかということをやっていないとなかなか難しい。 | 総教会議 |
| A-7 | ・子育ての自分事は、市長が主張しているシチズンシップにつながる部分がある。教育大綱を通じてシチズンシップの考え方を醸成していくことを打ち出すべきだ。 | 有識者 H |

[B]子供が育つ「西宮という環境」(自然・文化・伝統)

| 項番 | 内容 | 備考 |
|-----|---|-------|
| B-1 | ・西宮らしさとか、すべきことが書いてない。 | 有識者 H |
| B-2 | ・西宮というのは、教育に関して非常に先進的なところはあると思う。西宮のいままで持っていた教育に対する強い思いが、どこかで受け継がれるような、教育においては最先端を行くんだ。全国に先駆けて子どもたちのことを考えた新しい教育にチャレンジしていくんだ。教育のまち西宮というのをアピールしていくんだ。というのがもともと西宮にはあった姿勢だと思うので、そういうところが理解できるような大綱になればと思う。 | 有識者 H |
| B-3 | ・西宮市の良さに自然がある。歴史や伝統といった西宮らしさについても記載してほしい。地域で子どもを育てることについても書き込み、他団体とは異なるということを前面に打ち出してほしい。 | 有識者 H |
| B-4 | ・西宮市がこれまで取り組んできた文教住宅都市宣言、平和非核都市宣言、環境学習都市宣言、安全都市宣言などに、「市民が参加して」「市民が協力して」という言葉が入っており、これらの言葉を使うことで、一つのストーリーができると思う。 | 総教会議 |

[C]教育で子供たちが身に付けていく「生きる力(知・徳・体)」

| 項番 | 内容 | 備考 |
|-----|--|-------|
| C-1 | ・学習指導要領の基礎には、子供たちに「生きる力」をつけるというのが根底にある。これからの知識基盤社会を生きていくには、「知・徳・体」のバランスがとれた生きる力をつける必要がある。それが結局、将来大人になったときに、次の社会を支えていく人材になっていく。 | 総教会議 |
| C-2 | ・スポーツでも、勉強でも子供たちは向上したいという欲求は誰にでもある。そこを長い目で見て、育てていくことが大事だと思う。 | 有識者 H |
| C-3 | ・「子供に見られがちな課題」が出ないように、例えば、個人個人が何か言えるような機会を持たせる。夢や希望を持たせるための行事、目標設定等していかなければいけないと思う。 | 有識者 H |
| C-4 | ・学力も運動能力も大事だが、生きていくうえで運動能力は大事。 | 有識者 H |
| C-5 | ・うちの考えは、「徳」と「体」という二つのベースがあって初めて「知」というものが正しく導かれる。これはどの学校もそうだと思うが、やっぱり道徳というか、心を養って、身体も鍛えて、そういうベースの上でバランスの取れた頭の育成をしようという前提だ。 | 有識者 H |
| C-6 | ・体力と学力があるから良いのかというと、もうひとつ「心」がある。三輪車の後ろの車輪の2つが学力と体力とすれば、前の車輪は心じゃないといけない。前の車輪が方向を決めて、右・左に行くというのを決めて、二つの後ろの車輪がしっかりとこう動いて、いい方向に動いていく。前の車輪がとんでもない方向にいったらとんでもない事件を起こす。 | 有識者 H |

[D] 「学校」「家庭」「地域社会」は西宮の教育の当事者

| 項番 | 内容 | 備考 |
|------|--|-------|
| D-1 | ・基礎については学校教育が中心になってやっていかないといけないが、それをどのようにして社会に開き、実践するかを考える必要がある。 | 総教会議 |
| D-2 | ・「徳」の部分については、家庭や地域との連携をしないと育っていかない部分がある。 | 総教会議 |
| D-3 | ・主な対象は、小中学生かもしれないが、縦軸に子供の育ちが連続的にあり、横軸に地域や家庭、学校が常に関わっていくイメージが大事。 | 総教会議 |
| D-4 | ・縦の関係で、年配者、大人、子供までずっと並んで一緒に活動するというようなことを小さいときからやって、社会に関わっていくというのが、自然とシチズンシップにつながることを身に付けていくきっかけになるのかなと思う。 | 有識者 H |
| D-5 | ・地域の教育力は大きく低下している。会議や地域の会など、同じ人が参加しており、高齢化も進んでいる。教育大綱の中に、若い親が動くことができる仕組みを入れてほしい。子育て真っ盛りの人が仕事を理由にして参加しなかったり、PTA 活動にも参加しなかったりして、高齢者に任せていることもある。 | 有識者 H |
| D-6 | ・シチズンシップに関連して、PTA の問題が新聞によく出るが、保護者の感覚としては、子供のため、学校のため、地域のために役立ちたいという思いを持っている人は多数だと思う。しかし、時間的な制約であるとかで二の足を踏むというところがあると思うので、少し肩を押してあげるといところが非常に大きい。肩を押すことによって、保護者、市民の力というのを学校現場などで、大きく活用でき意味が大きいと思う。 | 総教会議 |
| D-7 | ・地域性もあるが、幼稚園でも保護者に家庭で様々な場所へ出向くよう取り組みないといけない。子どもの育ちを見てもらう、つながりの構築は幼稚園としての課題でもあり、地域の課題でもある。 | 有識者 H |
| D-8 | ・一番の問題点は、子育てが他人事になっていることだ。地域、家庭、学校それぞれで役割がある。目を引く教育大綱とするならば、「子育てはみんなの自分事」のような言葉が必要だ。 | 有識者 H |
| D-9 | ・もう少し強く打ち出しても良い。あまり書きすぎると過干渉や過保護とのバランスが難しい。地域で行う責任や行うことについて記載してほしい。 | 有識者 H |
| D-10 | ・過干渉が話題にあったが、その割には、保護者が仕事や自分のことで忙しいから地域の役をしたがらないので、次の担い手が見つからないことがある。ただ、前向きに捉える人もいるので、地域の中にいる大人・親としてもっと積極的に参加するという価値観をもっと大事にすればいい社会になるのではないかなと思う。 | 子子会議 |

[E]世界は今、そしてこれから どのように変わりゆくか

| 項番 | 内容 | 備考 |
|-----|--|-------|
| E-1 | <p>・現行の教育大綱は、すごく素晴らしいものをつくっていただいた。時期が早い改定は、どうかと思うところはあるが、これから教育の世界が大きく変わろうとしている中で、今回改定するのであればそれを見据えた改定になるようお願いしたい。</p> | 有識者 H |
| E-2 | <p>・「実現できなかった」という表現について話があった。未来を生きる子供達がこの文章を読んだときに、我々大人ができなかった宿題を託すという言葉だったらいいが、押し付けるといような形で捉えられたら良くないと思う。</p> | 有識者 H |
| E-3 | <p>・「西宮の子供たちへ」というところ、子供達が夢や希望がもう少し前向きに出たらいいかなという気がした。書いている文言はこれで問題ないと思うが、その中にもう少し「未来は明るいよ、だから希望を持とうね」というか、チャレンジということにもなると思うが、そういう言葉をもう少し前面に出したらどうかと思う。</p> | 有識者 H |
| E-4 | <p>・ICTなどを通じて色々な情報が入ってくる時代なので、その情報が正しいのか、正しくないのかを自分で判断する能力。加えて、友達や親と相談をして、どうしようということがきちっと話ができる対話的なコミュニケーション能力、そういったものを育む必要があると感じている。また、文科省の言うところの、「予測困難な未来」なので、いつどこで何が起こるか分からない、そういったときにも臨機応変に対応できる子でなければいけないと思っている。</p> | 有識者 H |
| E-5 | <p>・生徒のスマホやタブレット等については、時代的にいかに使わすかになってきていると思う。特に、探究的な学習が始まるにあたっては、それだけのものを予算確保し準備してやるができない。</p> | 有識者 H |

[F]がまん強く、ものごとに取り組んでいくこと

| 項番 | 内容 | 備考 |
|-----|---|-------|
| F-1 | <p>・20年位前文科省の人に、耐えること、辛抱すること、我慢すること、そういう教育をもっともっと力を入れないと、今の子供達は非常にひ弱になってしまうだろう、とよく言われたが、今、まさにそれが現実に現れていると思う。</p> | 有識者 H |
| F-2 | <p>・問題かなと思うのは、親の関わり方。親そのものがやっぱり、何か忍耐強さ、我慢強さみたいなものが欠如していつている気がする。そういう親が育てている子なので、どうしても我慢できない。それから、親が満足感を与えすぎてしまっている。</p> | 有識者 H |
| F-3 | <p>・保護者に関しては、確かに過干渉、過保護がある。もうひとつは意外と、全く逆もある。片一方に過干渉と過保護があって、ずっと真逆に「放任」というかもうちょっと世話してよみたい。育児放棄しているわけではないが、お母さん・お父さんができる範囲でもう少し、子供を細かく見てほしいなと思うときはある。自分の事を少し優先されている親が、昔に比べたら増えたのかな。もちろん、優先してもらって良いがバランスですよ。</p> | 有識者 H |
| F-4 | <p>・親自身が自己中心。当然子供は親を見て育つからそうなる。例えば学校に対する要求とかにしても、自分の子だけを見て「ああしてほしい」「こうしてほしい」というような形で関わってくる。そして、自分の子がきちんと教育を受けている、先生の目が届いている、そういうのであれば満足する。</p> | 有識者 H |
| F-5 | <p>・インターネットがない時代は、何かを調べるとなると。例えば、親に聞く、先生に聞く。こんなところからコミュニケーションがスタートしたりすると思うが、それが希薄になっている。また、図書館に行くとか、色々な形で調べ学習をするときに、苦労したというか、工夫したと思うが、その工夫が何もなくて、スマホに行けば何らかの答えが出てくる。そういうところがずいぶん違ってきていると思う。</p> | 有識者 H |
| F-6 | <p>・「徳」については、自分と違った価値観を尊重し、他に対して思いやりをもちましようということできくと、「コミュニケーション」だとか、それから「他人を思いやる心」というのが入っているが、「自分を律する」だとか「感動する心」というのが述べられてないので、そこをどうするか検討が必要。</p> | 総教会議 |

[G] 「多様な協働」「感性・創造性」を通じて新しい価値を生み出す

| 項番 | 内容 | 備考 |
|-----|--|-------|
| G-1 | ・多様性をもって力を合わせ一つの社会、チームを作っていくそんな時代になっている。多様性をもった人たちが存在価値を認められるようなことを意思として示していく必要がある。 | 総教会議 |
| G-2 | ・「個性が薄れている」これは正直大人でも、現場の若い先生を見てもやっぱり出てきているような気がする。 | 有識者 H |
| G-3 | ・今の社会で起こっている外国人への偏見、差別感情。あるいは貧困・格差も子供たちは切実に感じている部分もあるので、それをただ許容するのではなく、そういう難しい社会の問題を解決していく力を子供のうちから育てていくという考え方をこの教育大綱の中に入れていただきたい。 | 子子会議 |
| G-4 | ・総合的な学習が、新しいカリキュラムで総合的な探究に変わって、いまままで進路指導や将来を考えましようということに使っていたが、いろんな現象だとか問題を見いだし、それをどう解決したらいいのか自分の意見を考え、それを人に理解してもらおう問題探究型の授業を3年間通してするようになり大変になる。 | 有識者 H |

[H] 西宮市も「夢はぐくむ教育のまち」を目指す当事者の一員

| 項番 | 内容 | 備考 |
|-----|---|-------|
| H-1 | ・教育大綱そのものの意味づけをしっかりと考える必要がある。これは行政からすれば施策を打つための礎になる。現場からすると、教育環境の整備をお願いしたい。これは、ハード面、ソフト面、大人と子どもの関係を含めた人的な環境も子どもの育ちにとっては大切だ。小学校に入学する児童は6歳ないしは7歳で、子どもの持っている素質以上に環境に左右されている。これは、親御さんの価値観の多様化が子どもの育ちに影響しているということだ。育ちや学びの環境とともに、ハード面での箱ものも大切だ。衛生面、学習をきちんとできる環境の整備を考慮した教育大綱にしていただきたい。 | 有識者 H |
| H-2 | ・学校教育アンケートでは、校舎やトイレの劣化具合について意見が多く、教育環境は悪い。 | 有識者 H |
| H-3 | ・第5次総合計画で教育分野として掲げた項目については、4つの特徴(①多様化する子供への個々の教育ニーズの対応、②これからの社会において、どのような資質能力を身に付けさせるか、③社会教育・生涯学習の充実、④施設の整備等子供たちの学びやすい環境づくり)がある。これらと大本となる方向とが合致していければ、現場としても非常に分かりやすくなる。 | 総教会議 |

[I] 自尊感情、自己肯定感を身に付けることのできる環境

| 項番 | 内容 | 備考 |
|-----|---|-------|
| I-1 | <p>・2003年の国連であった子供代表の「子供にふさわしい社会は全ての人にふさわしい社会です。」にあるように、子供が市民として西宮市でいきいきと生活できるような環境を作っていくことが必要。</p> | 総教会議 |
| I-2 | <p>・配慮が要る子どもたちへの言葉が教育大綱に記載されていないので加えてほしい。地域にはいろいろな人が居て、その違いは豊かなことであることが分かる表現としてほしい。</p> | 有識者 H |
| I-3 | <p>・現在の教育大綱の中には「〇〇してほしい」、「〇〇しなければならない」ということが多く書かれているが、私は、どういう格好でも生きているだけでOKということが根底にあり、いろいろ頑張してほしいという気持ちがある。「どういう人でも、力の弱い子でも力の強い子でも、あなたの存在そのものが大事だよ」という文言がどこかに入らないものかなと期待する。</p> | 子子会議 |
| I-4 | <p>・子供の自殺のニュースを聞くと、本当は親でなければだめなんだろうが、親がだめならば、親友と呼べる友達がいるとか、もちろん学校の先生なんかにも、もっと、心を割って話せる相手がいたら、自殺に至らないじゃないかなとよく思う。</p> | 有識者 H |
| I-5 | <p>・一人で乗り切れないこともある。親とのコミュニケーションがない、友達ともない。結局、それでだんだん一人で押しつぶされる。だから常に相談できる相手、友というのか、親と言うのか、誰かが話が聞けるような方が必要。</p> | 有識者 H |
| I-6 | <p>・自尊感情が低いというのか、自分が認められる機会が多くないのかなと思う。自尊感情、自己有用感などを持っていたら、絶対に自分を大事にするし、他の人も大事にする。他の人からも大事にされる。そうやって人に大事にされたという経験は、絶対次に連鎖していく。自尊感情を上手く育てていくためには、どれだけ暖かい愛情の中で、褒められて育ったか、認められて育ったかという経験が大事。</p> | 有識者 H |

[J]幅広い他者とのコミュニケーションの力を育てられる環境

| 項番 | 内容 | 備考 |
|------|---|-------|
| J-1 | ・「人間関係の結び方がぎこちなくなっている」と感じている。以前は友達とのちょっとした行き違いや小競り合い、小さなケンカ等を自分達で解決し、自分達の生きる力にしていたが、そういった摩擦とかトラブルから自分で学ぶ力というのが、ちょっと落ちてきているのかなと感じる。 | 有識者 H |
| J-2 | ・「人間関係の結び方がぎこちなくなっている」原因について、世の中全体で子供の遊びが時間的にも場所的にも失われつつあり、スクールや教室という形で遊びすら大人が組織化しているというのが世の中の流れで、自発的に遊びから学ぶというのが減っているというのが、私は思っており、親の意識もさることながら、社会全体の環境というものが結構大きいのかなと思う。 | 有識者 H |
| J-3 | ・長い間教師をしているが、子どもたちは変わってきている。たくましさや欠けてきているような気がする。特に、一部の高校の生徒には、いい子に見られたいというところがあり、それがあなたの本音なのみたいなどころがある。社会に受け入れられるような答えをしがちとったりする。もっと本当の自分を出していいんだよ。 | 有識者 H |
| J-4 | ・本当は自分があって、その自分にどう、世の中とうまいこと付き合っていくかなんだけれども、何か世の中とうまいこと付き合うために自分を抑えてしまうような、考え方の順番が、ちょっと違ってきているんじゃないかなと思う。 | 有識者 H |
| J-5 | ・親にはなかなか言えない。ちょっと相談しにくいけれども、おじさん・おばさんだったら話ができるというのがあったように思うが、今親戚付き合いも非常に少なくなっているが、親戚付き合いがあれば、よく面倒を見てくれたお兄ちゃんがいたということで相談できると良い。 | 有識者 H |
| J-6 | ・親以外との大人との関わりというのはすごく大事。これは大賛成。親と先生以外の大人、お兄さん・お姉さんとの異年齢交流というようなものが、昔から比べれば減っているの、その必要性は感じている。 | 有識者 H |
| J-7 | ・イギリスのシチズンシップ教育もシチズンシップ教育に行くまでに、小学校や中学校の間、特に小学校ではソーシャルスキルを身に着けるので、コミュニティや人と人との関係が備わっていないとシチズンシップは難しい。そのために自分の意見を発言し、相手の意見を聞くことがシチズンシップへつながら。イギリスのシチズンシップ教育は、パブリックスクールで実施している。 | 総教会議 |
| J-8 | ・「自己表現力が低下している」については、コミュニケーション・ツール自身が変わってきているので、それを子供だけに、持って行くのは難しいかなという気はする。 | 有識者 H |
| J-9 | ・相談相手がないからネットに行く。ネットでは利害関係がないから、いろいろ親身になってくれる。相手の顔がわからなくても、自分の話を聞いてくれる。そういうところに、フッと行ってしまっ、事件に巻き込まれてしまうようなところがあると思う。 | 有識者 H |
| J-10 | ・スマホ等の利用の注意点については、生活指導の中でSNSの扱いの問題に対して、1年生の早い時期に講演会を行っている。 | 有識者 H |

[K]子供が地域の一員として暮らし、育つことができる環境

| 項番 | 内容 | 備考 |
|-----|--|-------|
| K-1 | ・地域で子育てという堅い印象を受ける。学校では、子どもとシルバーさんや老人会の人と顔なじみになる活動から始まっている。そうすると、顔と顔とが繋がっていく。西宮の子どもたちは地域に興味を持っていない。地域の人と顔なじみになることは非常に大切だ。 | 有識者 H |
| K-2 | ・朝、地域の子供達が登校するところで、挨拶している。すると挨拶が返ってくるんですね。それが大事なかなと思う。 | 有識者 H |
| K-3 | ・幼稚園と小学校は、地域とのつながりがあり、行事の際に地域の大人の顔が見えると安心する。地域でのイベントで、中学生と関わりや活躍の場があることは貴重だ。 | 有識者 H |
| K-4 | ・子どもたちもUSJだと楽しんでいくが、地域での餅つきやクリーン作戦にはなかなか行かない。親の意識が大切だ。 | 有識者 H |
| K-5 | ・教育というのは、生まれる前から存在することだと思っている。家庭の責任や、子供たちを育てる保護者に対する環境の整備についての視点が必要ではないか。 | 総教会議 |
| K-6 | ・コミュニティ・スクールについては、地域に色々な人がいるので、そういった人を有効活用するのは良いこと。 | 有識者 H |
| K-7 | ・コミュニティ・スクールについても、地域を巻き込んだ教育ということは行うべきと思うが、高校については、市外から通っている生徒がいることへの配慮が必要。 | 有識者 H |
| K-8 | ・子供が社会の一員と感じる、そう考えることは難しいと思っている。自分がそこに、社会に生きているということが体感、実感できるというのが、そこに居る間はないと思う。その町を出た後、昔の出来事を思い出して初めてアイデンティティとして分かるのかなと思う。だから、今いる子供に「社会の一員だ」と言っても、字面上思っても、実際には理解できないのかなと思う。 | 有識者 H |
| K-9 | ・社会の変化が大きいんじゃないかなと思う。確かに、そういう意味で地域の教育力というのは落ちていると思うし、地域の教育力とか、周りの意見を受け入れようという姿勢も落ちているような気がする。大人の問題とか、社会の問題なのかな。社会構造がそうなっているのかなと思う。 | 有識者 H |

[L]教育の機会が保障され、多様なニーズにも対応できる環境

| 項番 | 内容 | 備考 |
|-----|---|-------|
| L-1 | ・「支援が必要な子供など多様なニーズに対応した教育機会の提供等について」は、いまのところ具体的に書いていないのですが、多様性を認め合うということが必要だと思いますので、できればそういうニュアンスを少し入れ込んだ方が良く考える。 | 総教会議 |
| L-2 | ・「支援が必要な子供など多様なニーズ」の部分については、より丁寧に書き加えていきたい。また、これはいまの形式の中でも盛り込んでいけると思う。 | 総教会議 |
| L-3 | ・外国にルーツのある方は、なかなか学力が付かず、高校受験を迎えることが多い。 | 有識者 H |
| L-4 | ・保護者に望むことは、一緒に子どもの成長を考えてくださいということ。最近、子どもが可愛いからいろんなことを自分の子ども中心に考えてしまいがちだ。もっと広い目、高い視野から、子どもを育てるということを学校と一緒に考えて欲しい。 | 有識者 H |
| L-5 | ・生涯学習・リカレント教育、困難な状態にある子どもへの支援などは、この表現方法の中で書ければと思う。 | 総教会議 |
| L-6 | ・ネグレクトの傾向はだんだん増えてきている。度を越した過干渉も増えており、子ども同士では解決していることでも親同士がぎくしゃくして、悩む親もいる。親は多くの情報が入ってくるので、その中から選択ができていない。 | 有識者 H |
| L-7 | ・保護者が相談する場所が無く、子育てに悩んでいる保護者は多い。 | 有識者 H |
| L-8 | ・基本的な生活習慣が身につけていないため、不登校になってしまうことがある。親もそのような親に育てられているため、本来の家庭教育を知らないということが大きい。 | 有識者 H |

[M] 乳幼児から大人に至るまで教育が続けられる環境

| 項番 | 内容 | 備考 |
|-----|---|------|
| M-1 | ・教育は幼児期から学童期、青年期へと繋がっていくものだが、現大綱は対象となる子供がある程度、自分で判断できる位の年齢を想定しているのかなと思う。 | 総教会議 |
| M-2 | ・子どもたちが胎児の段階から社会的に自立するところまで、あるいはその子どもたちが新しく親になる時期まで、私たちが責任を持つ必要があると思う。教育大綱という名前だが、このような概念が含まれるべきだと思う。 | 総教会議 |
| M-3 | ・幼児期から学童期へ繋がるそういう育みの点、子供がいかに育てたいかというところは、重要。 | 総教会議 |
| M-4 | ・乳児期からの子供たちの育ちについて、連続性をもって、思春期、その後の成長につなげていくのかということについて、きちっとした目安をもっていかなければいけない。 | 総教会議 |
| M-5 | ・委員から出ている、おなかの中にいる赤ちゃんの時代から、教育、子育てが始まっているということは追加してほしい。 | 総教会議 |
| M-6 | ・乳幼児の中にも教育があることからリカレント教育と関連していると思う。妊産婦の時期から人格形成が始まっており、健やかな妊産婦期についてもサポートできる段階まで、広げられないかなと思う。 | 総教会議 |

[N]生活や遊びの中で体験することができる環境

| 項番 | 内容 | 備考 |
|-----|---|-------|
| N-1 | ・体験をすることが極端に不足していると思う。体験の中で正解は一つじゃなく沢山正解があり、どれが正しいとか、教えられるものではなく自分で見つけ出していく、体験しながら学んでいくということが実際の体験で、そういうことをいっぱい積んでいくことが大切だと思う。 | 有識者 H |
| N-2 | ・A I が人間の知能を超える時が来ると言われている。その時に機械にはできないこと、人間しかできないことをちゃんとできる子になってなきゃいけないと思う。美しいものを美しいと思う等感性って大事なので、感性を大きく育てていかなければいけないと思う。そして、感性を大きくするのは、体験だと思うので、いろいろな体験を積むことが大事 | 有識者 H |
| N-3 | ・書く範囲は難しいと思うが、今回、幼児期からの育ちがどう連続しているかをぜひ入れていただきたい。小学校以上の判断力は、乳幼児期に生活や遊びの中で経験を積み重ねてきたかが影響しますので、やはり乳幼児期からの発達の連続性、育ちの連続性をぜひ強調していただきたい。 | 子子会議 |

[O]子供だけでなく大人も、生涯学び続けていける環境

| 項番 | 内容 | 備考 |
|-----|--|------|
| O-1 | <p>・生涯にわたる学びの中で、生涯学習は理念だ。理念の実現のために、家庭学習、社会教育がある。教育大綱が大きなところから、市民性の醸成やシチズンシップについて、市長が思われているところを大きく取り上げれば、市民にもアピールができると思う。</p> | 総教会議 |
| O-2 | <p>・「生涯学習やリカレント教育について」は、シチズンシップを打ち出すということになると、大人たちはどうあるべきかという部分も必要になってくるのかなと思う。地域を良くしたいという思いと、取組内容の記載は、少しあった方がいいのかなと思う。ただ、すごく対象を広げてしまうと焦点がぼやけてしまうので、メインは、小中学校の子どもたちに対するものとし、シチズンシップという観点から少し、どういった大人になるべきなのかのところも、少し加えていただきたい。</p> | 総教会議 |
| O-3 | <p>・このような考え方が、リカレント教育や人生100年時代の生涯学習にもつながっていくと思うし、西宮の大人たちがより豊かな人生を送ることに繋がる。また、何歳になっても学び続ける姿を見せるということが、子どもたちの教育にも繋がると考える。シチズンシップが醸成された大人の具体的なイメージを持てるように、言語化する必要がある。</p> | 総教会議 |
| O-4 | <p>・改定に当たって、乳幼児期の子供まで入れているのであれば、過干渉や過保護はそういう年代から関わってくることなので、入れていただく必要があると思う。生涯学習に関するところまで広げてしまうと、子供に対する施策から外れてしまって、ポイントがぼやけてしまうというか、少し違う方向に行ってしまうのかなと思う。子供に対する施策についての教育大綱と考えるのであれば、そこまで範囲を広げる必要がないと思った。</p> | 子子会議 |
| O-5 | <p>・生涯学習は、視点が俯瞰的に大きくなるが、いま、生涯にわたって学習・教育を進めていこうとしているときには、そういう形にした方がいいと思う。そうすると、今の子どもたちに語り掛けるところと、どう全体としてバランスを取るかということになると思うので、このところはテクニックが必要だと思う。大きく書き方を変えとかいうことも含めて、1番の生涯学習については、入れる方向で検討していただきたい。</p> | 総教会議 |

[P]＜呼びかけ形式＞について

[全体]

| 項番 | 内容 | 備考 |
|-----|--|-------|
| P-1 | ・改定の方向性のところで、「シチズンシップ」を新しく出ているのに、次の教育大綱の改定の方向性にあまり具体的に反映されていないような気がします。学校教育のことが中心になって、社会教育などが無いように思う。方向性の柱立てのところでそういうことも検討されてもいいのではないかと思う。 | 子子会議 |
| P-2 | ・この文章はすべて抽象的な文言が連なっている。「勇気」や「尊重」、「価値観」等々、それは具体的にどういうことかがこの文章だけでは分からない。学校教育や家庭教育の中でそれを具体的にどう表していくのかがない。教育・保育はエビデンスベースです。どういった部分でそういった能力が高まったのかを調べることが重要。しかし、教育の中で技能的・能力的にどう子供たちを伸ばしていくのかに、理解がないままこの文章だけを出すと、文章がひとりよがり化してしまい、「そういうことを言っているのね」というだけになって、せつかくこれだけいろいろな方の英知を集められてつくられた文章なのに、非常にもったいないと思う。 | 子子会議 |
| P-3 | ・現教育大綱を見て率直に思ったのは、「べき」や「しましょう」という言葉が多くみられる。こういう言い方で相手に通じるかな、共感性もない、上の人間が一人の相手に伝えているだけと強く感じる文章になっている。見た人はこれだけでいいという気持ちになってしまうのではないかと思うところが一番惜しいと感じる。 | 子子会議 |
| P-4 | ・この語りかけるスタイルに最初は違和感があり衝撃的だった。正直、プランもののような書き方にしておけば、網羅的にいろんなものを全部取り込める。又は、都市宣言のように考え方をずらっと並べて終わることもできたのにという感想を当時は持っていた。しかし、慣れてくると内容、スタイルとも良いなと思っている。このスタイルでは書き切れない内容というのが出てくるが、だからこそ逆に、このスタイルだからこそ書ける内容というのを付け加えてもらいたい。 | 総教会議 |
| P-5 | ・子どもたちと大人たちへ明確に打ち出したことは西宮らしい。このらしさを残してほしい。 | 有識者 H |
| P-6 | ・「西宮の子供たちへ」の印象ですが、「子供は人として尊重される」という考え方に立つと、「持ちましょう」とか「○○を守りましょう」という書き方が大人目線で、単なる守るべき存在という感じする。子供は子供なりにきちんと考え意見を表明する権利もあるし、人として尊重されるという子供の権利条約から言うと、もう少し何か工夫があるほうがいいと思う。 | 子子会議 |

[挑戦する勇気]

| 項番 | 内容 | 備考 |
|-----|--|-------|
| P-7 | ・親が変わってほしくて、講演会をしても聞いてほしい親が来ない。我々の意図がそういう親には伝わっていかないと感じる。懇談会でも全体の中でそういう話をするが、そういう親は自分のこととして聞いていない。 | 有識者 H |

[立ち上がるたくましさ]

| 項番 | 内容 | 備考 |
|------|--|-------|
| P-8 | ・今の教育大綱について、「知」については、基本的なものがある程度きちんと書かれている。ただ、「失敗しても、落ち着いて、そこからどうすればいいか考えましょう」については、ここをどうするかは検討が必要。 | 総教会議 |
| P-9 | ・子供も教員も失敗することにチャレンジしない。授業をやっている間違っていいとからと言うのだが、すぐに答えを聞きたがる。また、「我慢できない子が増加している」も該当する。 | 有識者 H |
| P-10 | ・今の子は本当に満たされているので、何か困難にぶつかった時に、自分一人でそれを乗り越える術をなかなか見いだせない。本当に逃げ道がないときに自分でそこを乗り越えるという術・パワーがないというところは感じる。 | 有識者 H |
| P-11 | ・親は、測ることのできる結果を重視する傾向がある。本当は過程が大事だと思う。なかなか過程がそのまま結果に結びつくとは限らないところもある…。その過程を大切にできたらいいと思う。 | 有識者 H |
| P-12 | ・過干渉と過保護は違うと思う。愛情はなんぼ注いでも良いと思う。けれど、それで子供のしたいことに干渉して、子供が間違わないようにとか、こけないようにとか、先回りして失敗しないように、成功するように、どんどん手を打って行ったら、過干渉になると思う。 | 有識者 H |

[自分で考える力]

| 項番 | 内容 | 備考 |
|------|---|-------|
| P-13 | ・「おこられ慣れていない」というか、困難に向き合う力が乏しくなっていると感じる。自我の強さというか太さというかが、痩せていると感じる。 | 有識者 H |

[多様な考え方・価値観の尊重]

| 項番 | 内容 | 備考 |
|------|---|-------|
| P-14 | ・多様なものを認めましょうということは大事 | 有識者 H |
| P-15 | ・多様性については、1つは自分とは異なる考え方を許容できる市民という視点もあり、異なる存在を認めた上で、議論を行い、何らかの解決策を見出せないかというのが、あるべき社会の形であり、そういうものをもった人間になってほしいと思う。 | 総教会議 |

[社会の一員としてのふるまい]

| 項番 | 内容 | 備考 |
|------|---|------|
| P-16 | ・「西宮の大人たちへ」の「子供たちに対して愛情と敬意と涵養さを持ちましょう」というところも、まずは人として尊重するということからスタートしたほうがいいのではないかと思う。子供でも一個の人格として尊重されることを、子供自身にも大人にとっても明確に分かるような書き方をしてはどうか思う。 | 子子会議 |
| P-17 | ・生きる力について、今の教育大綱では「西宮の子供たちへ」で概ね網羅されているので、不足している部分を補う形で良いと思う。それに合わせて「西宮の大人たちへ」を若干修正すれば良いと思う。また、時代が大きく変わっているので、説明の部分を変える必要がある。このなかで「シチズンシップ」などが関わってくるのかなと思う。 | 総教会議 |
| P-18 | ・今回の大きな枠組みとして「大人たち」、「子どもたち」という呼び掛け形式を残す中で、シチズンシップを掲げるからには、大人たちへという項目の見直しが必要になると理解する。現行の大綱における大人たちへの項目は、「子どもたちへは、こういう姿勢を持とう」だとか「こう接しよう」と、対子どもに対してのあるべき論を、大人たちに求めている内容が中心だが、それが、「大人たちよ、あなたはこうあるべきだ」、「シチズンシップを醸成された大人というのは、こういう大人たちだ、こういう大人たろう」という形でまとめていくべきなのかなと思う。 | 総教会議 |
| P-19 | ・市長が今年度の市政方針で、市民の参画を柱建てて述べているが、これは学校教育と重なりがある。家庭教育、学校教育、社会教育、全てを含めそれらの学びの中で、市民性をしっかり熟成させていただきたい。そのような豊かな暮らしとよりよい社会づくりに力を発揮してほしいというところは、大きな柱になると思う。 | 総教会議 |

[私たちのふるさと西宮]

| 項番 | 内容 | 備考 |
|------|--|-------|
| P-20 | ・自国への郷土愛とかいうのがあがあるが、もとをただせば自尊感情が根元にああって、自分が好きで、自分の家族が好きで、まわりの近所が好きで、自分の街が好きで、西宮が好きというところにつながっていくと思う。 | 有識者 H |

[心身の健康を保ち、さまざまな体験を]

| 項番 | 内容 | 備考 |
|------|--|------|
| P-21 | ・「体」については、「運動に親しむように心がけましょう」というのが要るのかなと思っている。スポーツを通して子供たちの多くが、最後までやり遂げる力、いろんなことに耐える力を習得し、ストレスの解消にもつながり、「体」だけでなく「徳」の部分につながることもあるので、「体」の部分について、もう少しつけ加える必要がある。 | 総教会議 |

[Q]その他

| 項番 | 内容 | 備考 |
|-----|---|-------|
| Q-1 | ・アンケートを見て、教育大綱はほとんど認知されていないと感じた。周知されるためには分かりやすい言葉やキャッチフレーズが必要だ。学校教育で大切なものを考えながらキャッチフレーズを決定し、盛り込んでいただきたい。心を大切にすることが大切なので、その点についても表現してほしい。 | 有識者 H |
| Q-2 | ・西宮市が何を目標しているのかぱっと分かるインパクトのあるものが要る。現在の教育大綱は途中で読む気を無くしてしまう。「子育てするなら西宮」という言葉があった。教育大綱を見て、西宮市に暮らしたい、子どもを育てたいと感じてもらえるものであってほしい。 | 有識者 H |
| Q-3 | ・リーフレットを見たのだが、第一印象は字が多い。子供たちは読んだのかなというのが率直な感想です。市の子供たちの育ちの基本になるものなので、いろいろと文言が必要になってくると思うが、これをすべてリーフレットに挙げる必要があるのかなと思う。本当に子供たちに見てもらいたいのなら、「子供たちへ」というタイトルでもっと大きな文字で平易な言葉でリーフレットを作った方がいいと思う。 | 子子会議 |
| Q-4 | ・現在の教育大綱ができたときに、西宮市立の小学生・中学生には配られたのですが、高校生には配られなかったと思う。せっかく作るのであれば、しっかりと見てもらいたいと思う。 | 子子会議 |

「教育大綱等に関するアンケート」・「子ども未来カフェ」
で寄せられた意見

「教育大綱等に関するアンケート」

(1) 西宮市教育大綱のことについて

<認知度>

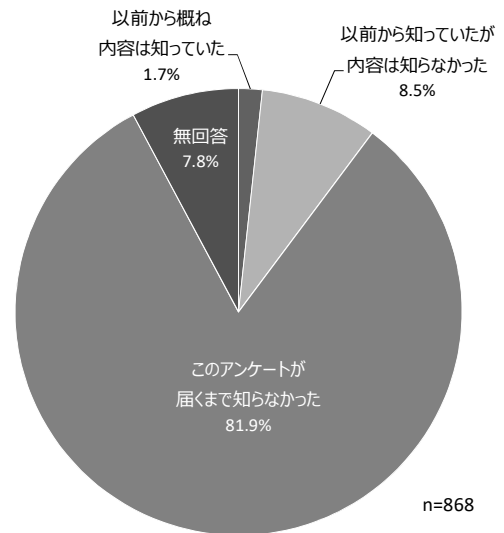
「このアンケートが届くまで知らなかった」が8割以上(81.9%)を占めます。

<大綱についてどう思うか>

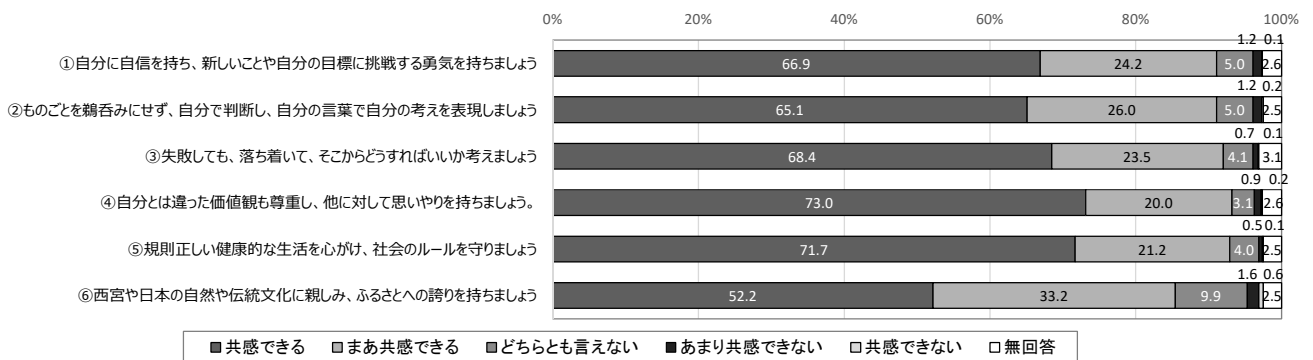
すべての項目で「共感できる」の比率が50%を超えています。子供への期待のうち比率が高いのは「④自分とは違った価値観も尊重し、他に対して思いやりを持ちましょう」(73.0%)、「⑤規則正しい健康的な生活を心がけ、社会のルールを守りましょう」(71.7%)となっています。子供への期待のうち最も比率が低いのは「⑥西宮や日本の自然や伝統文化に親しみ、ふるさとへの誇りを持ちましょう」(52.2%)、となっています。

大人への期待のうち最も比率が高いのは、「子供の興味や意欲に気づき、それを深めたり挑戦したりすることを応援し、見守りましょう」(69.5%)で、最も比率が低いのは、「⑫地域や日本の四季や伝統文化を感じられる機会をつくりましょう」(56.9%)となっています

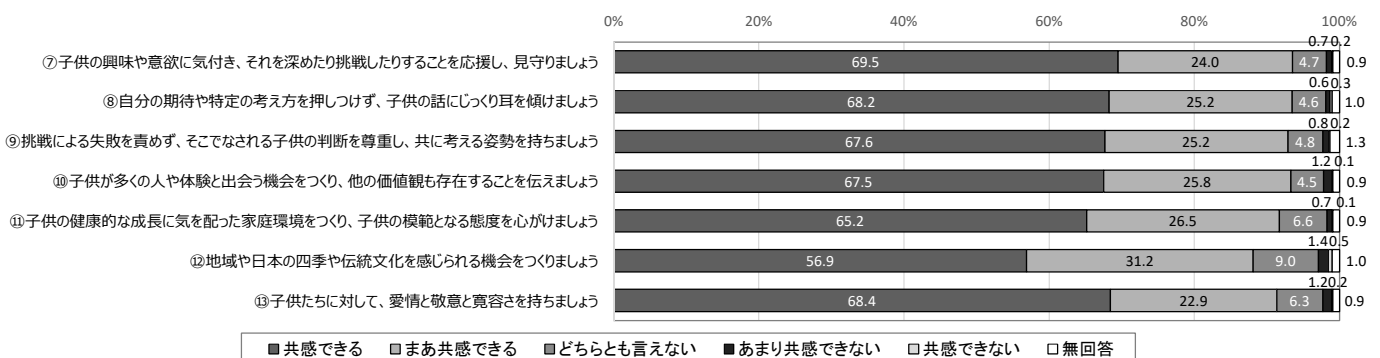
<教育大綱の認知度 (SA) >



<西宮の子供たちへ (SA) >



<西宮の大人たちへ (SA) >

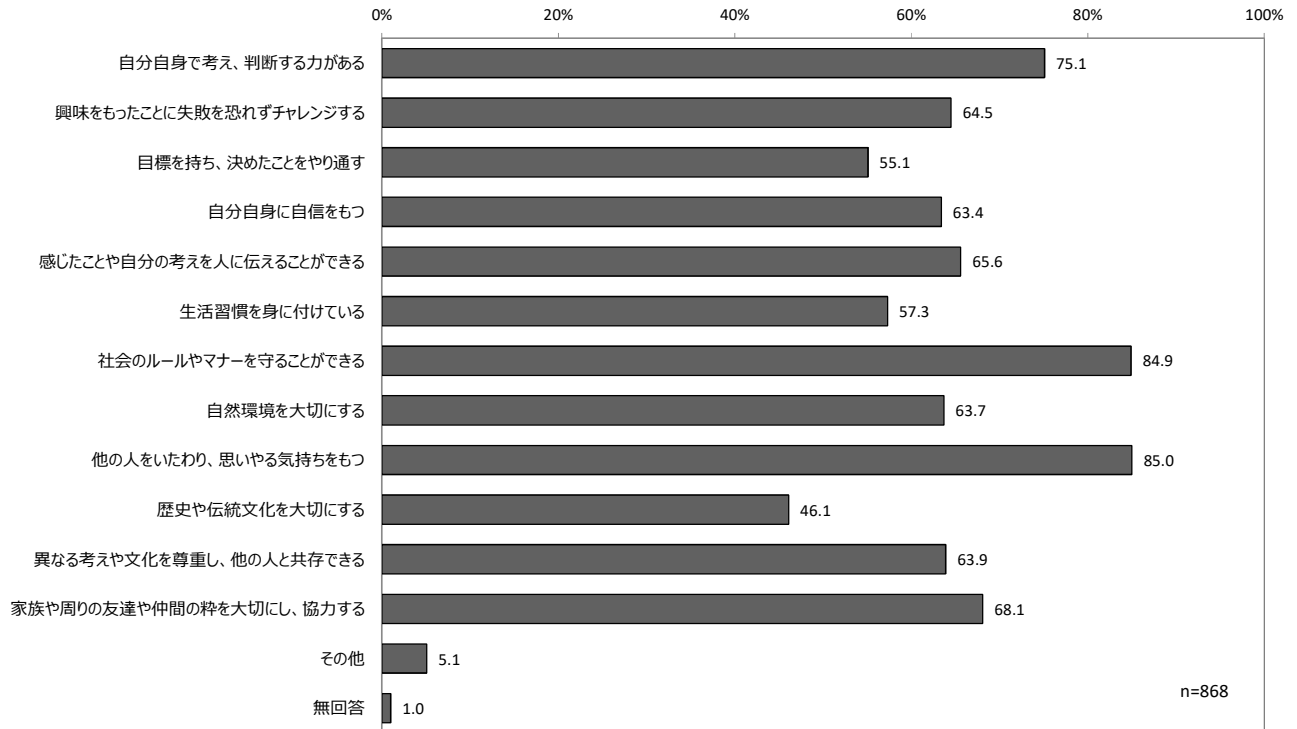


(2) 西宮市の教育について

<西宮市の子どもはどんなふうに育ったら良いと思うか>

「他の人をいたわり、思いやる気持ちをもつ」(85.0%)が最も多く、次いで「社会のルールやマナーを守ることができる」(84.9%)が多く、いずれも8割を超えています。

<子供たちがどのように育ってほしいか (MA) >



<子どもの発育段階ごとに、身に付けて欲しいことはなんですか>

●「幼稚園・保育所・認定こども園の卒園まで」と「小学校低学年(3年生)まで」

「②自ら進んで挨拶や返事をする態度や習慣」(40.6%、39.9%)の比率が高く、「①身辺自立などの基本的な生活習慣」(23.3%、39.5%)が続いています。

●「小学校卒業まで」

「④読み、書き、計算など日常生活に必要な知識や技能」(43.3%)が高く、「⑤自分の思ったことや考えたことを他人に分かりやすく表現する力」(34.1%)、「③友達をつくったり、自分のまわりの人々と仲良く付き合ったりするなど社会の一員として必要な幅広い能力」(32.6%)が続いています。

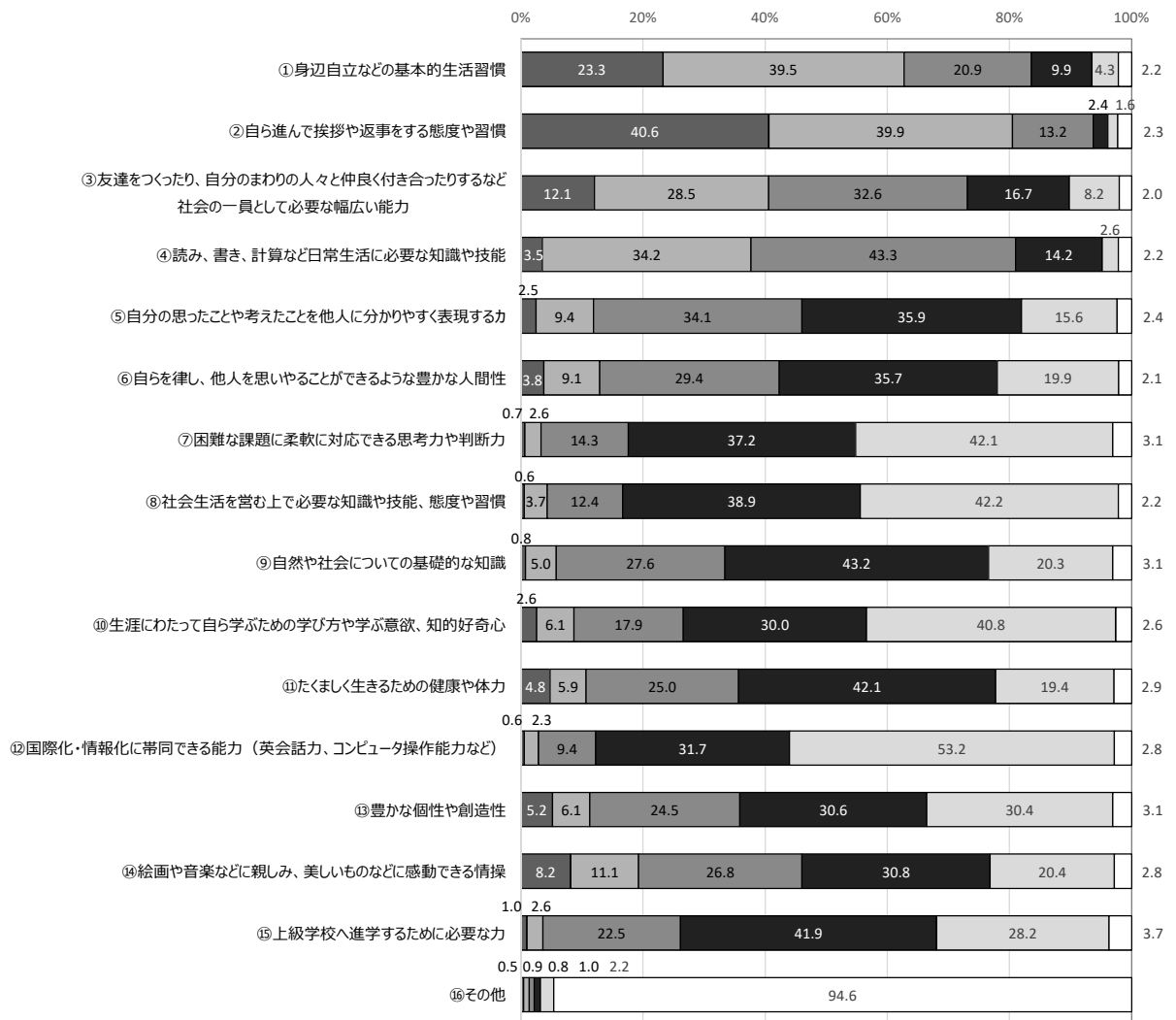
●「中学校卒業まで」

「⑨自然や社会についての基礎的な知識」(43.2%)が高く、「⑪たくましく生きるための健康や体力」(42.1%)、「⑮上級学校へ進学するために必要な力」(41.9%)が続いています。

●「高等学校以上」

「⑫国際化・情報化に帯同できる能力(英会話力、コンピュータ操作能力など)」(53.2%)が高く、「⑧社会生活を営む上で必要な知識や技能、態度や習慣」(42.2%)、「⑦困難な課題に柔軟に対応できる思考力や判断力」(42.1%)が続いています。

＜発達段階ごとに身に付けて欲しいこと (SA)＞



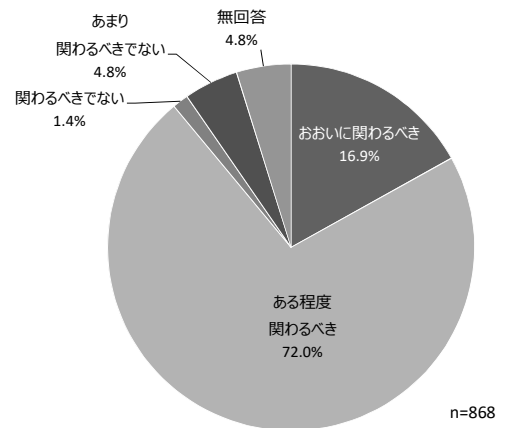
■幼稚園・保育所・認定こども園の卒園まで □小学校低学年(3年生)まで ■小学校卒業まで ■中学校卒業まで □高等学校以上 □無回答

(3) 地域社会の関わりについて

＜地域社会は、地域の子どもの教育や子育て支援などに関わるべきと思うか＞

「ある程度関わるべき」(72.0%)が最も多く、7割を超えています。

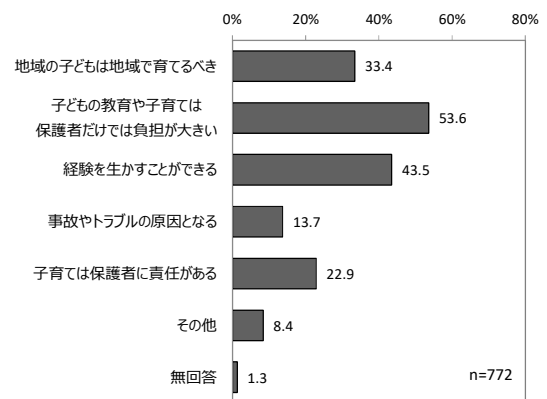
＜地域社会の教育や子育て支援などへの関わり方＞



＜「関わるべき」と思うのはなぜか＞

「子どもの教育や子育ては保護者だけでは負担が大きい」(53.6%)が最も多く、「経験を生かすことができる」(43.5%)、「地域の子どもは地域で育てるべき」(33.4%)が続いています。

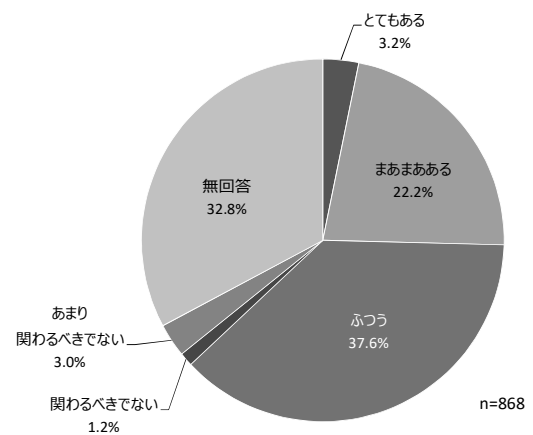
＜関わるべきと思う理由 (SA)＞



＜あなたの地域では、地域社会と子どもの関わりがありますか＞

「ふつう」(37.6%)が最も多く、「まあまあある」(22.2%)が続いています。

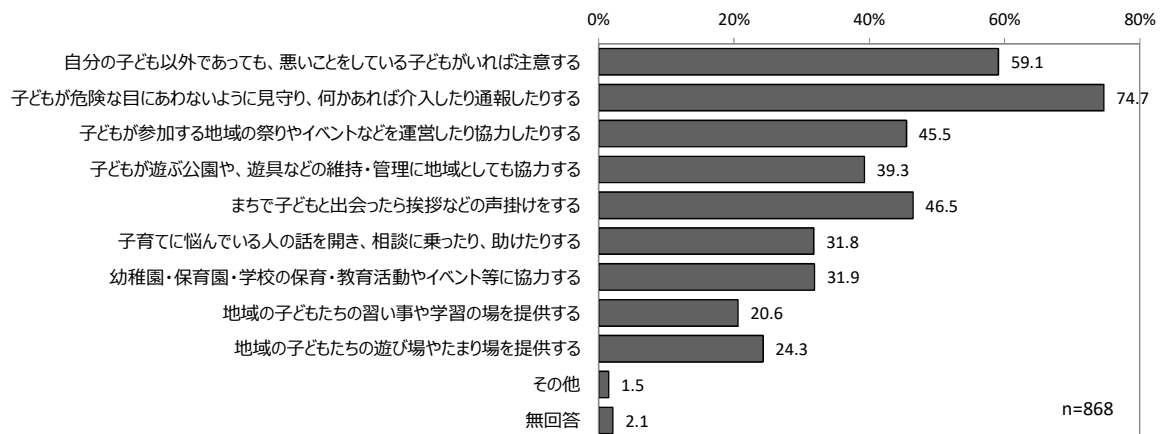
＜居住地域での地域社会と子どもの関わり (SA)＞



＜地域社会が担うことができる役割についてどのようなことがありますか＞

「子どもが危険な目にあわないように見守り、何かあれば介入したり通報したりする」(74.7%) が最も多く、「自分の子ども以外であっても、悪いことをしている子どもがいれば注意する」(59.1%)、「まちで子どもと出会ったら挨拶などの声掛けをする」(46.5%)、「子どもが参加する地域の祭りやイベントなどを運営したり協力したりする」(45.5%) が続いています。

＜地域が担うことができる役割 (MA) ＞



「子ども未来カフェ」でいただいた意見

(1) 『西宮の子ども像』として『大切にしたいポイント』『キーワード』

| カテゴリー | | 大切にしたいポイント、キーワード |
|---------------------------------------|--|--|
| 環境 | 居場所 1件 (1.8%) | 子ども達がありのままでいられる居場所づくり。通える児童館などが校区内、徒歩圏内にほしい。 |
| | 大人の接し方 7件 (12.5%) | 大人（親含む）の生き方、人生観。 |
| | | 大人の意識改革。 |
| | | 一人ひとりに寄り添う意での「擁護」。 |
| | | 周囲の人にかわいがられる子ども。 |
| | | 「助けてもらえる」、「支えてもらえる」という心を持ち、「やってみよう」という勇気を持つ子ども。 |
| | 教育の見直し 4件 (7.1%) | その人（子）が、その人（子）らしく暮らせる。 |
| | | 「普通」枠をはめない。みんな違ってみんないい。 |
| | | 0から1をつくる力（創造力）。「学力」じゃない。 |
| | | インクルーシブ教育。垣根のない教育。それが当たり前。 |
| | 地域コミュニティ 2件 (3.6%) | 一からの教育の見直し。 |
| | | 障害があってもなくても、みんなで共に学べる空間があってほしい。 |
| | つながり・関わり 6件 (10.7%) | 地域の中で育つ。学校以外の第三の場所。新旧混ざり合う大人の中で。 |
| | | 学校を核に、地域と一緒に子育て。 |
| | | 大人から子どもまで、人と人とのつながり。 |
| つながり。 | | |
| 人と人とのつながり。たくさんの人と関わるのが大事。 | | |
| 育まれる感情・意識 | 思いやり 7件 (12.5%) | 社会とのつながりの機会。 |
| | | たくさんの人と関わることのできる子。 |
| | | 共感→伝える、聞く、つながる |
| | | 思いやり、前向き。 |
| | | 思いやりがある優しい子。 |
| | | 他者への思いやり。 |
| | | 自分に優しく他者にも優しい。 |
| | 知らない子、小さい子にも優しくできる子達。 | |
| | 幸福感・満足感 4件 (7.1%) | 自分の心に正直で、他者の心にも気づける。 |
| | | 目で見えたり、点数などではっきりと表れる力より、人を大切に思える素直で優しい心を持った子どもになってほしい。 |
| 愛情ポケットいっぱいに入る大人（親・先生・地域の人 etc.）からの愛情。 | | |
| 地域を愛する心 4件 (7.1%) | 幸福感。楽しいを見つける力をもてる。 | |
| | ありのまま幸福を感じる。 | |
| | 幸福度アップ。 | |
| | 自分や住んでいる環境、育っている環境を愛する人になってほしい。地域を愛せる。 | |
| 自己肯定・自尊心 24件 (42.9%) | 西宮に愛着を持てる子。 | |
| | 西宮に愛着を持ち、他市町を愛す。 | |
| | ふるさと。 | |
| | 周りを気にするのではなく、のびのびと表現ができ、それを認め合える環境でありたい。 | |

| カテゴリー | | 大切にしたいポイント、キーワード |
|--------|---|--|
| | | <p>自分を出せて、明るい子達。</p> <p>自己肯定。</p> <p>自己肯定感。</p> <p>自己肯定感。</p> <p>自尊心を持った子。</p> <p>肯定する。自分を愛し、「好き」も「嫌い」も受け入れる。</p> <p>自尊感情。</p> <p>自尊心、自己肯定。</p> <p>自分を好きになれる。</p> <p>自尊心を持った子。</p> <p>自分を好きになれる子。</p> <p>自己肯定感。</p> <p>子どもが、自分が自分でいられ、自分を大切にし、社会の中の一人として育つ。</p> <p>自尊感情、ありのままの自分を好きで、大事にできる。</p> <p>自分も人も大切にできる子。</p> <p>自分を大切にしながら、人との関わりを楽しみ、成長していく。</p> <p>ありのままの私でいいよ。</p> <p>ありのままの自分を素直に愛せる子ども。</p> <p>「自分」を見つける。「自分」で選ぶ。「自分」を大切に。</p> <p>自分を大切にする人になってほしい。自尊感情。</p> <p>自分の気持ち、体を大切にする。</p> <p>自分を好きになり、自信を持つこと。</p> <p>社会は自分の力で変えられることを信じる。</p> |
| 学びとるもの | <p>意思決定・判断力 11件（19.6%）</p> <p>経験・学び 6件（10.7%）</p> <p>コミュニケーション能力 1件（1.8%）</p> <p>他者を受け入れる 9件（16.1%）</p> | <p>のびのびと自由に。自分のやりたいことを見つけて。</p> <p>自律と主体性を大切に。</p> <p>物事を自分で選択し、考えを持って生きる子どもを育む。</p> <p>自分で考える力。</p> <p>将来自分の意見を持って様々なことを選択できる人になってほしい。</p> <p>自分で知り、自分で判断し、自分の言葉で伝える。</p> <p>判断力。</p> <p>自分からやりたいと思える。</p> <p>子どもが自分で考えて、選んで、行動する力を持つこと。</p> <p>自立。</p> <p>子ども自身が自分で決める。ありのまま、その子らしさを大切に。</p> <p>色々な経験、失敗をして「たくましい子ども」に。</p> <p>失敗できる環境。</p> <p>遊び心、遊ぶ力。</p> <p>とにかく遊ぶ。自然の中で。「危険だから」の大人の考え方をなくす。</p> <p>「楽しい」。思いっきり楽しむ。</p> <p>ゲームやネットがなくても、自分たちで遊べる子。</p> <p>困難を乗り越えるために、助けを求められるコミュニケーション能力。</p> <p>自分と他者を認めあう。</p> <p>自己肯定＝他人肯定</p> |

| カテゴリー | | 大切にしたいポイント、キーワード |
|------------------|---|-------------------------------|
| | | 自分と他者を認める。 |
| | | 他者と自分を認められる子。 |
| | | 自分も他人も認めて、自然に受け入れられる。 |
| | | 自分以外のことを知ること。 |
| | | 他者と自分の差を理解できる。 |
| | | すべての個性を受け入れる。ありのままを大事にできる子ども。 |
| | | 「みんな一緒に生きる」を当たり前。 |
| 適応力 2件 (3.6%) | 色んな環境に対応できる子。 自分は大切にされていると実感して、色々なことにチャレンジし、変化に対応していける子。 | |
| 計 | 88件 (56名) | |

※各意見の延べ件数を集計している。また、回答者数に対する割合を算出している。

※（ ）内は回答者数に対する割合を表す。

(2) 『西宮の子ども像』に近づくために、『私』や『私たち』が『明日からでもできること』

| カテゴリー | | 明日からでもできること |
|--|---------------------------------------|--|
| 行政・地域の行動 | 子育ての支援 2件 (3.6%) | 子育てが終わった世代の活用。気軽に参加できる仕組みづくりを早急に。あまりお金をかけなくてもできる。 |
| | | 仕事、子育てに母親ばかりが大変な思いをしないように。 |
| 自分の行動 | 大人が子どもの手本になる 8件 (14.3%) | 大人が見本となって、挨拶や対話。 |
| | | 大人が(自分自身が)子どもに言っていることを実践する。 |
| | | 親が知らない人にも優しく声がけすること。 |
| | | まずは大人が、自分が色んな人と関わっていく。 |
| | | できることから動いてみる。 |
| | | 目の前の人を大切にすること。 |
| | | 日常。 |
| | 行動すること。 | |
| | 大人の意識を変える 2件 (3.6%) | 大人達の意識を変える。自分たちの受けた教育の枠を出る。→そういう考え方をまわりに広める。映画「みんなの学校」をみる。 大人が変わる。社会が変わる。 |
| | 心のゆとりをもつ 6件 (10.7%) | 子どもに心の余裕を持って接してあげる。 |
| 大人が心の余裕を持つこと。 | | |
| 気持ちにゆとりを。 | | |
| 大人の私達が心や時間に余裕を持つ。 街を出る。(週末など山、海、森へ) 子どもに関わる大人に心の余裕が必要。 | | |
| コミュニケーションをとる 7件 (12.5%) | 色々と相談する。 | |
| | 親が子どもとたくさんお話しすること。 | |
| | 子どもの心の声をきちんと聞くこと。 | |
| | 子どもにも正直に伝える。 | |
| | 子ども達に「好き」をもっと発信する。 「あなたが大切」と伝えること。 | |

| カテゴリー | 明日からでもできること |
|-----------------------|---|
| 個を認める 7件 (12.5%) | 子どもの話を聞いて、選択できるようにしてあげる。 その人が、その人らしくいるためにどんな風でもOK。ありのままを認める。 大人が子どもと自分自身を認めること。 「みんな一人一人違って、みんないい」という考えを大事にする。 何事に対しても「こうあるべき」ではなく、色んな個性を尊重し、安心で安全な地域でありたい。 ほめる言葉をかける。 子どもの気持ちを大切にする。 接する人に前向きな言葉、共感する言葉を語る。 |
| 自己肯定 1件 (1.8%) | 大人も自分の気持ち（感情）に正直（大切）になる。 |
| 知る 9件 (16.1%) | 「知る」こと。 知ること。（障がい、貧困、ひとり親） 障がい、貧困、ひとり親の方達が生きづらいのは社会に障害があるから。その障害をなくす。 様々な立場の人の話を聞く。 親が積極的に多くのことを知ること。 知ること。 教育大綱の市民共有。 知らないことを知る、学ぶ。 子ども達も含めた地域（すべての人）が、色んな人がいることを「知る」機会をつくっていくこと。 |
| 信じて見守る 9件 (16.1%) | 子ども達が自分で判断する力を育めるよう、何でも大人が決めないこと。 子どもたちに役割を与える。 人を傷つける以外は、子どもに注意しない。 自分の「普通」を見直し、押しつけない。待つ。信じる。肯定する。関わりすぎない。 （子どもの）自分自身の生き方を見つめる 子どもへの接し方。 大人の都合で制限しない。 子ども自身を認め、「見守っているよ」という目線を向け続けること。 子どもとの信頼関係をつくる。 |
| 伝える・発信する 5件 (8.9%) | 伝える。自分の考えていること、困っていることを伝える。 市民の声として発信すること。すべての子ども達のために。 声をあげ続けること。 自分の思いを言葉に出すこと、発言すること。 命の大切さ、命を守るために必要なことを、日々伝える。 |
| つながる 15件 (26.8%) | 学校、地域に対し関心を持つ。 学校を中心にしたコミュニティを、できる限り親も楽しみながら関わってみる。 つながる。 名前を覚える。 つながる。 たくさんの大人に会う。 集まる→話す→つながる→声をあげる 周囲の子ども達と接点を増やしてあげる。 |

| カテゴリー | | 明日からでもできること |
|----------|-----------------------|--|
| | | <p>子どもを取り巻く大人同士のコミュニケーションをしっかりとる。</p> <p>関わりが少ない現況に当たり前にならず、子ども子どもまでと思って、未来を守るために何か一歩進めた気がします。</p> <p>人と人とのつながり。「よかったらうちに遊びに来れば？」</p> <p>仲間を見つける。</p> <p>つながること。</p> <p>家族や友達と笑いあう、側にいる誰かに声をかける。</p> <p>それぞれの方面でがんばっている人がたくさんいるので、その人たち同士でタッグを組む。</p> |
| 地域・自分の行動 | 地域で育てる 13件 (23.2%) | <p>明るい挨拶。</p> <p>少しのお節介、声かけ。</p> <p>挨拶。</p> <p>声かけ。「失敗してもいいんだよ。」</p> <p>「挨拶」を出会った人にする事で、信頼できる・信用できる大人、子を育てる地域につながる。</p> <p>地域の子の名前を覚えて、名前を呼ぶ。</p> <p>地域の子どもと大人に声をかける。(名前を覚えたい)</p> <p>地域へ出かけ、(子ども中心に)より多くの方々と関わる。</p> <p>知らない子どもにも挨拶をする。</p> <p>地域の子どもの名前を覚える。</p> <p>我が子、よその子関係なく、西宮の子どもとして育てる、声をかける、見守る。</p> <p>我が子以外の子ども「みんなで育てる」。</p> <p>子どもが外に出る機会をつくる。</p> |
| | 計 | 84件 (56名) |

※各意見の延べ件数を集計している。また、回答者数に対する割合を算出している。

※()内は回答者数に対する割合を表す。

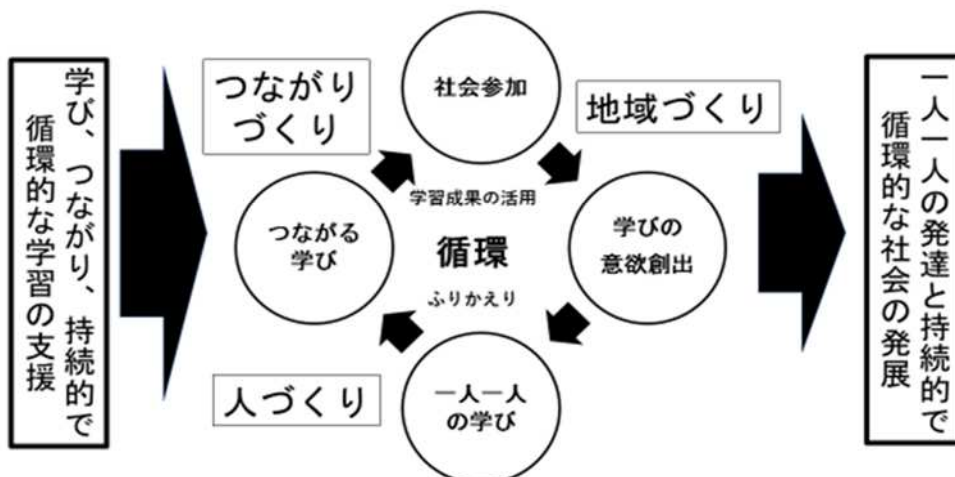
2 生涯学習の全庁的な推進体制とコミュニティ・スクールについて

■本市の生涯学習推進の課題

- (1) 地域活動の担い手の高齢化・不足
- (2) 地域が抱える課題や地域が持つ資源の発掘と情報発信
- (3) 全庁的な生涯学習推進体制の構築
- (4) 地域の生涯学習拠点施設の管理・運用の仕組みの整備・改善と施設間連携の促進
- (5) 市民の多様な学習ニーズに対する行政の役割の明確化
- (6) 新型コロナウイルス感染症対策と学習活動の両立

- ・これからの学校教育は大きく変わるが、ICT による教育では育まらない「人と人のつながり」をどう育むかが課題となる。
- ・「学んだ知識を社会で生かすことができること」「社会で役に立つ学び」が、学校教育にも社会教育にも求められる。
- ・学校教育では社会に開かれた教育課程とコミュニティ・スクールの実現、社会教育では人生100年時代における生涯を通じた学習体系の確立が大切となってくる。
- ・複合的な課題に対応するため、社会教育行政部局とまちづくり、福祉・健康、産業振興等の他の行政部局、教育機関、企業、NPO 等の多様な主体との連携を強化する必要がある。
- ・市の施策の実現には、行政だけではなく市民一人ひとりの力が必要であり、自分事として参画しようとする意識、市民力(シチズンシップ、情報リテラシー、規範意識、行動力等)が求められる。
- ・市民力を育むという視点で、今後の生涯学習・社会教育のあり方を考えて行く必要がある。
- ・今年度より、市長事務部局に生涯学習企画課を新設し、来年度は、図書館・公民館・郷土資料館を含む文化財行政を市長事務部局へ移管することを予定している。学校教育、社会教育が共に役割を果たし、生涯学習社会を基盤とした持続可能なまちづくりの実現を目指す。

生涯学習を基盤とした持続可能なまちづくり



民生常任委員会
教育こども常任委員会
所管事務報告

資 料

令和2年9月10・11日

※報告日までは外部への
資料提供はご遠慮ください。

生涯学習の全庁的な推進体制について

| | | |
|-------|-------|--------------------------|
| 産業文化局 | 生涯学習部 | 生涯学習企画課 生涯学習事業課 |
| 教育委員会 | 社会教育部 | 文化財課 地域学習推進課 読書振興課 |

生涯学習の全庁的な推進体制について

1 生涯学習に関する動向 資料①「中教審答申概要」

◆中央教育審議会答申 平成 30 年 12 月

「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（答申）」より要旨抜粋

◆「地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律」（第 9 次一括法） 令和元年 6 月 7 日に公布・施行

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」、「社会教育法」、「図書館法」、「博物館法」が一部改正され、地方公共団体の判断により、首長が、条例の定めにより、社会教育施設を所管する仕組みが導入されました。

2 西宮市社会教育委員会議の答申

◆「活力を維持・発展し続けていくコミュニティ形成に必要な社会教育の在り方」について（答申）平成 30 年 1 月 16 日

◆「今後の生涯学習の推進と社会教育のあり方について ―人生 100 年時代を見据えた社会の持続的発展のための学びの推進―」（答申） 令和 2 年 1 月 16 日

3 西宮市の目指す方向 資料②「市民性をはぐくむ西宮市生涯学習推進体制イメージ」

- 1 「学びと活動の好循環」の実現による地域社会を担う人材育成、持続可能な地域社会の実現
- 2 市長を中心とした全庁的な生涯学習推進体制の確立
- 3 生涯学習施策の体系化、学校教育を含む各教育施策との連携強化
- 4 生涯学習関連事業の推進体制の効率化
- 5 社会教育施設、文化施設等を含む複合施設の在り方の見直し

4 令和 2 年度の生涯学習推進体制の整備

◆生涯学習部の設置

令和 2 年度、産業文化局に生涯学習部を設置し、同部に教育委員会事務局から社会教育課を移管し、生涯学習企画課としました。

◆生涯学習審議会の設置

社会教育に関する審議会的機能を果たしてきた社会教育委員会議を、全庁的に実施されている生涯学習関係施策について、市長からも教育委員会からも諮問・答申ができるよう、地方自治法に基づく地方公共団体の附属機関である生涯学習審議会に移行しました。

◆生涯学習推進本部の設置

庁内の生涯学習関連部局の情報共有と連携強化を図り、生涯学習施策を円滑かつ効果的に推進するため、市長を本部長とする局長級による本部を設置しました。また、両副市長の下、生涯学習に直接関わる部署を中心に幹事会を組織し、推進本部所管事務を着実に推進します。

◆生涯学習推進計画の策定

生涯学習推進計画は、第5次総合計画の部門別計画として、市民の学習に関連する本市の取り組みについて、その基本的な考え方や施策の方向性を総合的・部門横断的に定め、生涯学習に関連する施策・事業を行うすべての行政部門に関わる計画として今年度中の策定を目指します。計画期間は、令和3年度から令和12年度までの10年間とする予定で、生涯学習審議会で協議を進めています。

5 令和3年度以降の組織改正及び取り組み

◆社会教育機関の移管

令和3年度、図書館、公民館、郷土資料館について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第23条第1項第1号に基づき、特定社会教育機関（条例に基づく長が所管する社会教育機関）として、市長事務部局へ移管する方向で協議を進めています。

このことにより、市長を中心とした全庁的な生涯学習推進体制を確立し、市長と教育委員会が連携を密にして、学校教育を含む各教育施策の連携強化、生涯学習関連事業の効率化、社会教育施設、文化施設等を含む複合施設の在り方の見直しなどに取り組みます。

なお、移管にあたっては、社会教育の政治的中立性、継続性及び安定性の確保、学校教育との連携を確保するため、特定社会教育機関を設置及び廃止する場合は、社会教育法に基づき、教育委員会の意見を聴かなければならないものとする規則を制定し、社会教育の適切な実施の確保に努めます。

また、社会教育部が所管しているコミュニティ・スクール、放課後の居場所づくり事業、PTA活動への支援、青少年補導活動など特に学校教育と関連の深い事業については、引き続き教育委員会が担当していきます。

◆文化財保護行政の移管

令和3年度、文化財保護行政についても、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第23条第1項第4号に基づき、市長事務部局へ移管する方向で協議を進めています。

これまでの文化財保護行政に加え、景観まちづくり、観光など他の行政分野と連携した総合的な取り組みにつなげることをねらいとしています。文化財保護法第183条の3に基づく文化財保存活用地域計画を策定し、市内に多数存在する文化財にストーリーやテーマによりつながりを持たせ、地域資源として活用していくことを、これからの文化財保護の重点的施策としていきます。

◆生涯学習事業の執行体制について

市が実施する生涯学習は、生涯学習事業や公民館・図書館を所管する社会教育関係各課だけでなく、環境・福祉・産業などの各施策担当課においても様々な生涯学習事業を実施しています。今後行政で実

施する生涯学習事業においては、個人の自己実現だけでなく、学びの成果を地域に還元し貢献できる人材育成や、学び合いによる人とのつながりづくりに注力していきたいと考えています。

そのため、全庁的な生涯学習事業に横串を刺し体系化するとともに、組織間の連携を強化し、効果的・効率的な事業展開を図ってまいります。あわせて、公民館・図書館・生涯学習大学宮水学園など既存の生涯学習事業について、市民の生涯学習を総合的に支援する観点、職員の専門性・業務の継続性等を確保する観点から、実施体制のあり方を検討します。

◆コミュニティ施策との連携について

生涯学習を推進し、人づくり、つながりづくりを通して、主体的に課題解決に取り組む市民意識の醸成、地域社会を担う人材育成に取り組むことは、住民自治のまちづくりの基盤となります。今後も、生涯学習施策とコミュニティ施策が連携し、生涯学習社会を基盤とした持続可能な地域づくりの実現に資する組織体制に向け、引き続き検討してまいります。

人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について (答申) 概要

第1部 今後の地域における社会教育の在り方

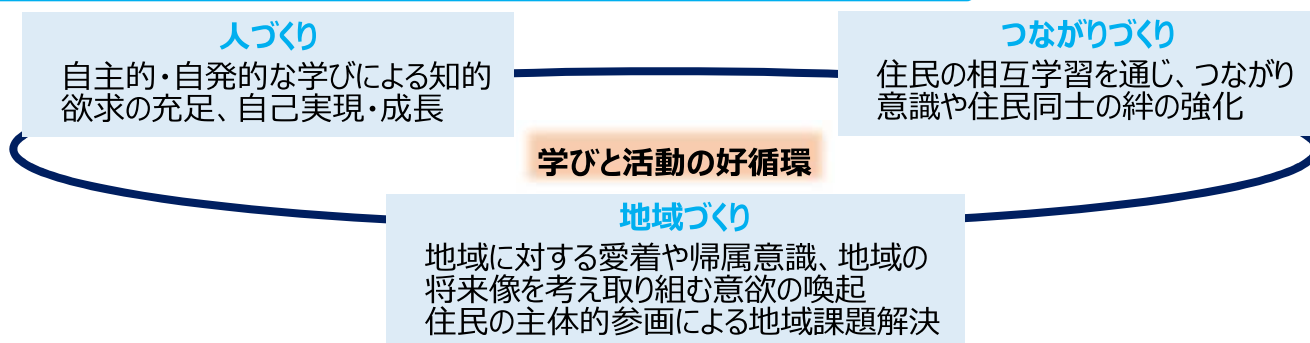
<地域における社会教育の目指すもの>

1. 地域における社会教育の意義と果たすべき役割～「社会教育」を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくり～

多様化し複雑化する課題と社会の変化への対応の要請

- ・人口減少、高齢化、グローバル化、貧困、つながりの希薄化、社会的孤立、地方財政の悪化、SDGsに向けた取組等
⇒ 持続可能な社会づくりを進めるために、住民自らが担い手として地域運営に主体的に関わっていくことが重要
- ・人生100年時代の到来、Society5.0実現の提唱等
⇒ 誰もが生涯にわたり必要な学習を行い、その成果を生かすことのできる生涯学習社会の実現に向けた取組が必要

社会教育：個人の成長と地域社会の発展の双方に重要な意義と役割



2. 新たな社会教育の方向性～開かれ、つながる社会教育の実現～

住民の主体的な参加のためのきっかけづくり

社会的に孤立しがちな人々も含め、より多くの住民の主体的な参加を得られるような方策を工夫し強化

ネットワーク型行政の実質化

社会教育行政担当部局で完結させず、首長、NPO、大学、企業等と幅広く連携・協働

地域の学びと活動を活性化 する人材の活躍

学びや活動と参加者をつなぎ、地域の学びと活動を活性化する多様な人材の活躍を後押し

開かれ、つながる社会教育へ

<「社会教育」を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくりに向けた具体的な方策>

1. 学びへの参加のきっかけづくりの推進

- ・楽しさをベースとした学びや地域防災、健康長寿など、関心の高い学び等、学びや活動のきっかけづくりを工夫
- ・子供・若者の参画を促し、地域との関わりの動機付けとなり得る成功体験づくり
- ・社会で孤立しがちな人々に対して、福祉部局等との連携により、アウトリーチの取組を強化
- ・各地における具体的な取組の収集・共有、地域における活動の事例分析と周知

2. 多様な主体との連携・協働の推進

- ・首長部局との連携を効果的に図るため、総合教育会議の活用や、部局間の人事交流を推進
- ・NPO、企業、大学等と行政関係者との積極的な意見交換や協議
- ・地域学校協働活動を核にした社会教育と学校教育の一層の連携・協働

3. 多様な人材の幅広い活躍の促進

- ・地域の課題解決等に熱意を持って取り組む多様な人材を社会教育の活動に巻き込み、連携
- ・教育委員会における社会教育主事の確実な配置、多様な主体による「社会教育士」の取得推奨

4. 社会教育の基盤整備と多様な資金調達手法の活用等

- ・各地方公共団体における十分な社会教育費の確保を含めた基盤整備
- ・クラウドファンディング等の多様な資金調達手法の活用

第2部 今後の社会教育施設の在り方

<今後の社会教育施設に求められる役割>

社会教育施設には、地域の学習拠点としての役割に加え、以下のような役割も期待。

- ・公民館：地域コミュニティの維持と持続的な発展を推進するセンター的役割、地域の防災拠点
- ・図書館：他部局と連携した個人のスキルアップや就業等の支援、住民のニーズに対応できる情報拠点
- ・博物館：学校における学習内容に即した展示・教育事業の実施、観光振興や国際交流の拠点

<今後の社会教育施設の所管の在り方>

このような中、地方公共団体から、地方公共団体の判断により、地方公共団体の長が公立社会教育施設を所管することができる仕組み（以下「特例」という。）を導入すべきとの意見が提出。これについて検討し、必要な措置を講ずる必要（「平成29年の地方からの提案等に関する対応方針」（平成29年12月26日閣議決定））。



生涯学習社会の実現に向けた横断的・総合的な教育行政の展開に向け、社会教育に関する事務については今後とも教育委員会の所管を基本とすべき。

一方、地方の実情等を踏まえ、より効果的と判断される場合には、地方公共団体の判断により地方公共団体の長が公立社会教育施設を所管できる特例を設けることについて、社会教育の適切な実施の確保に関する制度的担保が行われることを条件に、可とすべき。

◆ 特例を設けることについて

（他行政分野との一体的運営による質の高い行政の実現の可能性）

- ・社会教育施設の事業と、まちづくりや観光等の他の行政分野の社会教育に関連する事業等とを一体的に推進することで、より充実したサービス等を実現できる可能性。
- ・福祉、労働、産業、観光、まちづくり、青少年健全育成等の他の行政分野における人的・物的資源や専門知識、ノウハウ、ネットワーク等の活用により、社会教育行政全体を活性化できる可能性。
- ・社会教育の新たな担い手として、まちづくりや課題解決に熱意を持って取り組んでいるがこれまで社会教育と関わりがなかった人材を育成・発掘できる可能性。

（施設の効果的・効率的な整備・運営の可能性）

- ・首長部局が中心となって行っている社会資本整備計画等を通じた施設の戦略的な整備や、様々な分野が複合した施設の所管を一元化することによる、当該施設の効果的な運営の可能性。

◆ 社会教育の適切な実施の確保の在り方について

同時に、社会教育の適切な実施の確保（政治的中立性の確保、住民の意向の反映、社会教育施設としての専門性の確保、社会教育と学校教育の連携等）のためには、本件特例を設けるに当たり、教育委員会による関与など一定の担保措置※を講ずる必要がある。

※担保措置については、例えば、地方公共団体において所管の特例についての条例を定める際に、教育委員会の意見を聴くこととする、といった例が議論されたが、具体的な在り方については、国において、法制化のプロセスにおいて具体的に検討すべき。

◆ 地方公共団体において特例措置を活用する場合に留意が求められる点

- ・特例が活用される場合でも、当該施設は引き続き社会教育施設であり、法令の規定を踏まえた専門的職員の配置・研修、運営審議会等を活用した評価・情報発信等が重要。
- ・教育委員会は社会教育振興の牽引役として引き続き積極的な役割を果たしていくことが重要（総合教育会議等の活用、首長部局やNPO等との連携・調整等）。地方行政全体の中に、社会教育を基盤とした、学びを通じた人づくり・つながりづくり・地域づくりの視点を明確に組み込んでいくことが重要。

令和2年度コミュニティ・スクール導入校での取り組み状況

| | | 第1回学校運営協議会開催日 | コミスクだより発行 | ホームページ掲載 | R2.臨時休業後、学校再開に向けた支援活動 | 熟議の内容 | その他の事業・協働活動 | 第2回学校運営協議会開催予定時期 |
|--------|-------------|---------------|-----------|-----------|-------------------------------------|--|---|------------------|
| 義務教育学校 | 1 西宮浜義務教育学校 | 8月27日 | | | | PTAの行事のように「あいさつフェスタ」の在り方について(新型コロナウイルス対応も含めて) | 放課後学習 マリナふれあいマラソン マリナワーク 西宮浜をきれいにする会 外国語活動支援 | 12月中旬 |
| 小学校 | 2 鳴尾北小学校 | 6月19日 | ○ | ○ | 1年生の下校サポート 1年生の給食サポート(配膳等) | 新型コロナウイルス対応について(企画部で検討) | 各サポーターをコミスクサポーターに再編 期間限定コミスクサポーター募集 コミスクサポーター募集ガイドブック作成 各学年の授業支援(状況を見て) ビオトープフェスティバル開催(新規) | 2学期中に3回 3月に1回 |
| | 3 用海小学校 | 7月15日 | ○ | ○ | | 全学年での地域学校協働学習を新型コロナウイルスに配慮しながらどのように実施するか 次年度に向けて、全学年の地域学校協働学習の見直し | 新型コロナウイルス対応をふまえた全学年での地域学校協働学習の実施 | 10月5日開催済 |
| | 4 鳴尾東小学校 | 7月29日 | ○ | ○ | | 協働授業での主体的な児童の学びについて 実物、体験等の工夫 児童からのニーズを聞く あいさつについて | 図書ボランティアを地域の人と一緒に運営したい グランドゴルフクラブ支援 密を避けるためクラブ数を増やすので地域の指導者募集 アサケコンサート(1年生のみで実施) 例年通り実施したい協働授業 平和学習、鳴尾いちご、自転車教室、震災の集い、昔のくらし、昔あそび、キャリア教育 園芸ボランティア(グリーンハウスクラブ) コミスクだよりでの広報 | 未定 |
| | 5 上ヶ原南小学校 | 8月18日 | ○ | | スクールサポートスタッフの募集 | めざす子ども像、 育むために何をするか | ぼっかぼか川柳 スクールサポートスタッフ募集 コロナの状況を見て 教室にお花をプロジェクト 花、図書、工作ボランティアのコラボ企画 | 1月 |
| | 6 上甲子園小学校 | 8月25日 | ○ | | 子供用マスク100枚制作(4月3日) トイレ清掃(6月22日～) | 新型コロナウイルス対応、放課後学習の推進について企画部で検討・実施 | 校地整備、上甲オアシス 放課後学習 | 11月 |
| | 7 北夙川小学校 | 9月9日 | ○ | ○ | 手すりなどの消毒作業(6月4日～) | 新型コロナウイルスの影響で会議が開催できないなか 教職員の思いと地域の思いの交流(推進員作成のアンケートで交流) ↑推進員が間に入り細部をすり合わせ。 | アンケートを受けて 七夕飾り→越木岩神社でお炊き上げ 地域で活躍する委員会活動(公園清掃、花栽培→地域を飾る、自治会掲示板での広報活動、ボラセンで地域のお年寄りとの交流) コロナ禍の中での2年生町探検(映像作成、講師依頼、見学店舗開発) 特別支援学級図工支援と休み時間交流 3年生地域学習「だんじり」見学と宮司さん講話(例年通り実施) | 12月 |
| | 8 南甲子園小学校 | 10月8日 | | | | | 放課後学習支援 新型コロナウイルスの影響で参観日等が実施できないため、各学年の学校での様子を地域学校協働活動推進員がホームページで紹介 | 2月 |
| | 9 学文中学校 | 7月20日 | ○ | | | 新型コロナウイルスの影響でなくなってしまった生徒会の輝く場を地域でどのように作るか 次年度に向けて、各夏祭りで生徒が主体的に活躍するために | 地域と連携した防災訓練→地域と連携した防災研修 安全管理ボランティア(門ボラ) 緑化・図書ボランティア | 11月16日 |
| 中学校 | 10 山口中学校 | 8月26日 | 作成中 | 地域連携のページ有 | | 学校評価アンケート項目について「コロナ」をどのように入れていくか 新型コロナウイルス対応(生徒の心の負担軽減一私たちに何かできないか) 情報発信(メディアを増やす) 伝統文化の学習を発展させる 公民館サークルを講師に | ラジオ体操(見守り・挨拶声かけのため) 地域の自然を守る(モリアオガエル) 状況を見ながら工夫して実施 「しめ縄づくり、有馬川クリーン作戦、古文化保存、防災教育(野田中、木山中との交流、防災学習)」 | 11月18日 |
| | 11 大社中学校 | 9月28日 | 作成中 | | | 不登校支援について | 相談室整備、カウンセラー室整備 | 12月10日 |
| 追加導入校 | 12 深津中学校 | 10月2日 | | | | | 英語・漢字・数学検定 美化委員会による植栽管理 | 2月26日 |